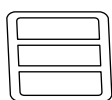


かねざわ

第58号

平成28(2016)年8月

- ・ 第1回学習会 「小柴の歴史」 (P-3)
- ・ 「パソコン何でも相談室」 【8】 (P-37)
- ・ 「ジョン万次郎 漂流記」(第2回) (P-39)



次

運営委員会からのお知らせ

2 探訪(第6回学習会)のお知らせ

学習会

3 第1回学習会

「小柴の歴史」

“わ”の会元代表 太田耕蔵 氏

12 第2回学習会

～鎌倉幕府滅亡と観応の擾乱～

16 第3回学習会

～観応の擾乱から両朝合一～

19 学習会欠席時の資料等の取扱い

分科会からの便り

20 「寺社を巡る会」

22 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 No.19

代表 佐藤 晃

29 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.14

代表 小俣 悦男

33 「浮雲俳句会」抄録 No.12

代表 北野 清市

37 「パソコン何でも相談室」【8】

代表 林 洋

39 「ジョン万次郎 漂流記」(第2回)

代表 真田 雅行

43 会員の動静

「人物風土記」

北野清市さん

行事予定

44 9月～11月



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ：<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

2016年度 探訪（第6回学習会）のお知らせ
『杉田界隈を巡る』 実施日：10/14（金）

定番となっています秋の探訪のご案内です。

今年の探訪は、金沢区の隣の磯子区杉田界隈を探訪する企画とさせていただきました。

杉田は、東漸寺・妙法寺・杉田八幡神社・杉田梅林・杉田劇場など歴史的にも興味深い場所を探訪します。

案内は探訪実行委員会が行います。

『実施要領』

1. 探訪地 杉田地区：東漸寺、杉田八幡神社、妙法寺、旧杉田劇場
2. 日 時 10月14日（金）10時00～15時30 小雨決行
注1：班編成 20名毎1班とします。
注2：荒天等で中止の場合は当日朝6時45分までに、担当者が電話連絡すると共に“わ”の会ホームページに掲載します。
3. 集合時間：午前 10時00分（厳守）
4. 集合場所：京急杉田駅ビル東急プララ1F入り口（エスカレーター下）
5. 持 物：名札（着用）、昼食、飲料、帽子
6. 昼食場所：東漸寺休憩室
7. 探訪経路 杉田駅ビル東急プララ⇒熊野神社⇒東漸寺（昼食と境内拝観）⇒旧杉田劇場跡⇒杉田神社⇒妙法寺（開山堂にて法話と境内拝観）解散
※諸般の事情により、コースを変更する場合があります。
8. 申込期限 9月28日（水曜日）
※探訪終了後に懇親会を予定しております。

第1回学習会

「小柴の歴史」

開催日：平成28年5月14日（土）

10：40～12：00

会 場：能見台地区センター多目的室

講 師：“わ”の会 元代表

太田 耕蔵 氏



講師：太田 耕蔵 氏

【概 要】

小柴は鎌倉末期から歴史に登場する史実の多い漁村で有り、柴漁港は横浜市漁港で一番古く大きく最後の漁業を営む地域で、この小柴の歴史、経済、文化、交通、漁業組合などの変遷を13項目に分けて詳しく講演いただきました。

1. 今日どうして小柴か？

それは鎌倉末期から歴史に登場し、鎌倉幕府の外港として栄えた六浦湊に匹敵し、漁港は横浜漁協で古く中心的存在で、埋め立てで大きく変化してきた地域である。

2. 小柴の歴史登場は？

1311年の応長の天津波により富岡にあった長浜千軒が流され、難を逃れた漁民がこの地に転住したことから始まったようで、小柴のいわれについて 此木村⇒柴村 越場⇒小柴 腰場⇒小柴などがあるようです。

小柴には8つの字名が有り、太田講師のお住まいは行田と言われていた所になります。「平成6年金沢町土地宝典」では現国道16号の東側で南側に称名寺三山が有り、北側は長浜まで含まれており東側東京湾という地域でありました。

3. 小柴はどんなところか？

東を海に南・西・北を山に囲まれた半漁半農の孤立した漁村で、農業は行田、榎戸(現西柴)と山を越えて行われており収穫した作物の運搬には苦労があったようです(小山さん宍倉さんの話)。陸路は、小柴旧道(御尼寺坂)から日向山をとおり一本松(柴台山)から柴村に入るしかなく、その他は船で海路となったそうです。一本松のところは、分かれ道となっており行田に出て富岡、長浜へ行く道もあった。一村一寺の宝蔵院と氏神である熊野神社がある。また、金沢町大字柴には、東山、小谷、西ヶ谷、亀木、行田、榎戸、長浜、荻野の字があった。

4. 小柴の経済は？

半漁半農で漁業は文化13年(1816)「江戸内湾漁獵大目三十八職」が漁業者に定められ漁法の調整が行われた。今年はそのから二百年目となり再度見直しのお話もあるようです。

その後、明治36年柴漁業組合が発足し、昭和24年柴漁業協同組合に、そして埋め立てにより一時漁業をあきらめかけたが、結局昭和56年に漁業権の無い横浜市漁業協同組合(柴支所)となった。県と横浜市を含めた思惑の違いがあったようである。現在は漁業者123人で漁業の他釣り船をやっている人もいる。漁法は、地引網漁、底引網漁、手繰網漁、刺網漁、打瀬網漁、潜水器漁、海苔養殖などがあり、漁獲物はあなご(江戸前)、たいら貝、トリ貝、ホタテ貝、あさり、海苔、シヤコ(小柴ブランド)、カレイ、タコなどである。最近では、陸奥湾よりホタテの稚貝を送ってもらい、柴で育てると水温が高いので短期で育つとのこと、今年はその倍になるとのこと。

資源管理のため、2操一休・養殖(アサリ、海苔、ワカメ、ホタテ貝)・栽培漁業(稚魚放流)・直販所開設・魚フェアの開催がある。漁の他、シヤコの出荷準備、海苔の乾燥など女性の仕事も多い。

農業は女性中心で行田での米栽培、野菜、麦、まゆが主であったが、現在は柴シーサイドファームで農業が行われている。昔は問屋に魚海産物を運んだ「おしょくり」があった。また、竹で編ん

である容器「ぼてい」に魚を入れて売り歩いた「ぼてい(柴の行商)」があり逗子、鎌倉、杉田、上大岡まで売り歩かれており、小山さんのお婆さんは、大橋家にも「ぼてい」に行かれていたそうです。

5. 応長の大津波

応長元年(1311)5月18日夜、富岡村の長浜千軒と呼ばれた漁村を襲った大津波だが、歴史上の文献、記録は全くなく、吾妻鏡にも記録されていない。長浜千軒の漁村は流出、壊滅したが、観音様がみがわりとなって海に沈み、住民は一人も溺れることなく、小柴、富岡、州崎、氷取沢、千葉の富津などに避難した。観音様は、30数年後海中から救出され祀られた。後年、地先の海岸を埋立前に海底を調べたところ、長浜千軒辺りに松の木の根株の並木があり伝説が実証された。この大津波は記録がないが、同様の被害を受けた伊勢湾台風では台風による高潮が原因とされており、また①低い中心気圧②強い風③遠浅の海と岬と条件が酷似しており、応長の津波も高潮との推察も出来る。また、応長の大津波で身代わりになったと云われる観音様は、長浜にあった福聚海寺が本尊と共に流出しておりその本尊と云われている。本尊聖観音菩薩→岡の観音様=(長浜観音、海中出現観音、貝付観音、元五郎観音)。観音様は、称名寺赤門脇の観音堂、昭和10年に金沢山山頂の八角堂に、現在は称名寺金堂に祀られている。富岡の旧家より見つかった「長浜縁起和讃」にも津波について『亥の年五月十八日俄に悪風吹をこし民家津なみに引き流し』、本尊について『三十七年海ちうにしずみ給ふは身かはりよあらありがたや観世音』と記されている。

6. 斎田家文書

斎田家文書とは、江戸後期に柴村の名主、明治期に戸長を勤めた斎田家に伝わる文書で、現在は『斎田助一家所蔵文書』として横浜開港資料館に保管されている。同様に布川家文書、松本家文書等も横浜開港資料館に保管されている。斎田家文書記録は、『県史目録』と照合の上、項目別(支配・村政、村絵図、土地、年貢割付、年貢皆済、

年貢・租税・村入用、商業、金融、寺社、船・漁業)に再整理し編年された。村高帳、村明細、名寄、年貢割付、年貢皆済、年貢取立帳、船役人別長及び明治初期の役場関係史料などがまとまっている。総点数 626 点、文書の年代は宝暦 6 年(1756)から大正 13 年(1924)までの 168 年間に及ぶ。斎田家長子は代々助左衛門を名乗り、その子、助一は町内会長を務め、孫の直道は現在三喜丸で釣船業を経営。町内会長は斎田、小山、穴倉、森田の各家で持ち回りのようである。

7. ペリー来航

弘化 3 年(1846)ビッドル艦隊が野比沖に来航、柴村の漁民と漁船が徴発される。

ペリー率いる米国東インド艦隊が嘉永 6 年(1853)浦賀に来航し開港を迫った。翌年にも再来し 3 月末に横浜で日米和親条約を締結した。この再来時には、艦隊は約 2 ヶ月間小柴沖に投錨し緊張が続いた。ペリーは小柴沖に碇泊し、ここを「アメリカン・アンカレッジ」、小柴沖崎を「ポイントフィルモア」、夏島を「ウェブスターアイランド」などと称した。柴村は、川越藩主の命により警備にあたった。東山に丸太の大砲をおいた。藩主から萱き替え用の萱場(殿山)を賜った。上陸の異人達と交流し、ビールの空き瓶をギヤマンと称し神棚に祀ったりした。

8. 家田洋文

明治 38 年金沢学校(現金沢小学校)の教師をしていた家田洋文は、小柴に住みつき柴漁業組合や青年活動を通じて小柴に貢献した。家田洋文は、柴の文化活動を担うものとして、青年会を発足させた。青年会を実のあるものとする為、漁業組合と表裏一体化した組織形態とした。

青年会の活動として、「青年会の奉仕活動一大暴風雨災害の後始末」、「勸農策一開墾の実践」、「生活の近代化への対応一新道路・トンネルの開鑿、電燈の引き込み」、「五年継続預金事業」、「アサリの養殖事業一不採算で取り止め」、「銭湯と床屋の経営」、「青年会館の建設」、「夜学塾の開設(自

宅でスタートし、宝蔵院そして青年会館で行った)」。

9. 小柴の学び・生活

明治 5 年(1872)の学制制定により、翌 6 年柴村に小柴学舎が設けられた。明治 8 年の学区改正で従来の学区である 5 カ村(洲崎、町屋、寺前、谷津、泥亀新田)に柴村が編入され、小柴学舎は知足学舎に統合された。知足学舎は現金沢小学校の前身である。

昔は農業が主で自給自足し、漁業で現金収入の道を仰ぐという生活だった。当時の船は小さく碇びきだったので、ちょっとした風や雨にも出漁を見合わせねばならなかった。こうした時化の日は努めて農作業に精を出した。農作業のできない雨の日には藁ぶちや網の手入れなどに充て、何日も何日も藁を打ち続けた。このように船の仕事と農作業でほとんど 1 年中、暇がなく働らきづめだった。その為、他村から「可愛い娘は柴には嫁にやるな」と云われたりしたのもだったので、柴の暦と行事は、仕事の節目、休息の日となり、伝統となって伝わっている。

現在でも、正月・七草・稲荷講・初不動・水神祭り(熊野神社)・祭り・お盆・お十夜などが行われている。特に水神祭りは、毎年 4 月 1 日に行われ、海上の安全、豊漁を祈願するお祭です。富岡八幡宮の神主による『湯立神楽』の奉納のあと、柴漁港より漁船で沖へ出て魚を放流します。魚への供養の意味合いがあるそうです。漁船を飾るたくさんの大漁旗が色とりどりで美しく、沖へ出て行くさまは勇壮なものです。

10. 小柴の交通と観光

三方が山、前面が海の孤立した漁村で御尼寺坂が外部とは唯一の交通路であった。寺前方面と反対方向で富岡に行くことが出来た。柴村の田んぼ等のあった行田に行くのもこの道が使われていたそうです。御尼寺坂は、昼なお暗い急な坂道で地獄坂とも呼ばれていた。

大正 2 年に柴隧道が開通し陸路の利用が良くなった。また、昭和 14 年に柴~長浜トンネルも

開通した。現在の京浜急行電鉄の前進である湘南電気鉄道が昭和5年に黄金町～浦賀、金沢八景～逗子間で開業。この金沢の地は金沢八景の名勝、海水浴のある避暑地、観光地として賑わい夏場の貸間・貸家が盛況であった。柴町にある料亭金沢園は昭和5年に開業し、割烹旅館の他、遊園地、大弓場などのスポーツ施設、貸しボート、釣り堀、遊覧船などがあつた。与謝野鉄幹、晶子夫妻や高浜虚子も訪れた。

11. 長浜検疫所

明治12年にコレラ蔓延防止のため長浦消毒所が設けられたが、明治28年に久良岐郡金沢村大字柴に移転され「長浜検疫所」と呼称され、明治32年に「横浜海港検疫所長浜処置場」となった。同明治32年に検疫医官補として採用された野口英世が垂米利加丸の中国人船員2名を「ペスト」と診断したことで有名になった。「横浜海港検疫所長浜処置場」は昭和48年に閉場され、平成3年に「輸入食品・検疫検査センター」となった。現在一部は、長浜野口記念公園となっている。

12. 戦時体制

昭和13年国家総動員法による勤労奉仕の通達により学徒勤労働員が始まり徐々に強化されていった。昭和18年になると戦局は暗くなり、本土の空襲も険しさを増してき学童疎開が始まった。神奈川県は特定地域国民学校初等科3年以上6年までの児童に対して親戚縁故者等に疎開したが、他の児童には集団疎開をすすめた。昭和19年8月16日、金沢国民学校児童525名は東秦野村に集団疎開した。柴町45名は東秦野村蓑毛高岳寺と寺山鍊成寮だった。学校の空き教室は海軍航空隊が使用した。昭和12年日本軍が柴町の約2/3(74町歩)に相当する柴一長浜トンネルの長浜側を海軍施設として強制買い上げが行われた。海軍燃料廠小柴貯油施設といい地下燃料貯蔵用タンク30基を造った。他にも日向山の東側斜面に横須賀海軍航空隊金沢送信所、そして小柴崎高角砲台があつた。戦後、海軍燃料廠小柴貯油施設は、米軍に接收され石油貯蔵庫となり、

平成17年12月に変換された。変換された用地は公園として跡地利用計画が進められている。

13. 金沢地先埋立

金沢地先埋立事業は、昭和40年(1965)に横浜市が計画した6大事業(都心部強化、港北ニュータウン建設、金沢地先埋立、高速鉄道(地下鉄)建設、高速道路網建設、横浜港ベイブリッジ建設)の一つ。昭和40年代後半から事業開始。金沢の美しい自然の海岸と富岡などの古くからの漁港や海苔養殖場は失われ、金沢産業団地と並木の住宅団地が誕生した。

横浜市6大事業は元横浜市港湾局理事の田中常義氏(1980年開発部埋立工事課長)によると飛鳥田一雄市長時代(昭和38～53年)の昭和43年「金沢地先埋立事業」の発表と昭和46年に工事を着手。

細郷道一市長時代(昭和53年～平成2年)の昭和63年「金沢地先埋立事業」完成。高秀秀信市長時代(平成2～10年)の平成2年八景島の整備工事に着手、平成5年横浜・八景島シーパラダイスが開業した。

金沢の地先埋立により昭和49～55年に造成された「金沢産業団地」は、幸浦一、二丁目、福浦一～三丁目の約400haの地域。横浜市内にあつた企業の工場約750社が進出した。排水処理施設、ごみ焼却施設、金沢シーサイドラインの車両基地、横浜ヘリポートや横浜市大医学部と附属病院などがある。隣接する住宅地域との間には長さ約4kmの金沢緑地が造られた。

金沢産業団地には目玉として、現「みなとみらい」から三菱重工業が移転してきて三菱重工業金沢工場となったが、2016年3月までに全事業を国内外拠点に移管し閉鎖された。

柴漁業協同組合としては、旧柴漁港の埋立に対して海上デモ、補償金交渉、転業対策、漁業権放棄など、いろいろなことがあり柴漁業協同組合は解散し、昭和56年に柴、金沢、富岡、本牧の市南部の漁業者317人が1人40万円を出資して横浜市漁業協同組合を設立し現在に至っている。

漁業権放棄については、県と市そして漁民の思惑が交錯して決定したようである。昭和63年にマサキの鼻に「蒼穹の下魚鱗輝きし地」（横浜市長細郷道一書）と柴漁協由来の碑を建立された（漁協への愛着と苦勞、解散への思いが滲む）。

元横浜市漁業協同組合組合長の小山紀雄さんに依ると、今年文化13年（1816）に定められた「江戸内湾魚獵大目三十八職」が制定されて200年の記念の年となり、漁法などについての見直しの話も出ているとのこと。

この度は、“わ”の会元代表の太田耕蔵氏に、三方を山に正面を海に囲まれた小柴村を、応長の大津波で柴村に住みつき、半農半漁の村として、また家田洋文の協力による村おこしなどを経て、現在も小柴としての独自の生活習慣などが残っている貴重な地域に焦点をあて、大変短い時間の中で素晴らしい講演をしていただき有り難うございました。また、この学習会の資料作成等に参加させていただき小柴に対してのさらなる思いを深いものとなりました。

（江口 正彦 記）



新しい門出へ

2016年度第1回学習会アンケート集計と実施報告

1. アンケート集計

出席者	一般会員	委員	計（出席率%）	ビジター	計	アンケート（提出率%）
	男	72	9	81(77.1)	0	
女	9	2	11(64.7)	1	12	54 (58.1)
計	81	11	92(75.4)	1	93	

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
24名	27名	1名	2名

- 材料豊富で判り易かった、単行本にすることを勧めます
- 氏の地域に関する調査努力に敬意表します
- 細かい説明・写真があり、かなり理解できた
- 非常に良く調査されたことご苦労様でした、良い資料となります(2)
- 大変貴重な資料を提供して頂き感謝(2)
- 資料がよく整理され、一読明快、小柴の発展(歴史)を学んで感謝、興味(小柴についての)を深めた
- 「小柴」について多角的にまとめられて詳細に説明していただいた
- 豊富な図版を載せ、小柴の歴史を理解するのに役立っています
- 学習会資料「小柴の歴史」力作である(2)
- 小柴について大変良く調べられました、勉強になりました
- 詳しくお調べされたのが判ります、貴重な古い写真を見る事が出来ました(お尼寺坂)
- 資料・写真等多数準備されており、解説丁寧でよかったですと思います、非常に勉強になりました
- 柴町の由来、歴史を知ることができ、現在の埋立て前の事が理解できた
- 知っているようで知らなかった小柴、よく理解できた(2)
- 柴の生活・行事も分かりました
- 聞き取りやすかった(小さな村の歴史楽しく、昔の写真がよかった)
- 今まで小柴を取り上げた事がなかったので大変興味深く聞けました。改めて訪れたいと思った。写真、映像、資料共に豊富で分かりやすかった。少々時間が少なくもう1回聞きたい
- 小柴の地名のいわれが分かった、色々歴史の変遷があって興味深かった
- 小柴の歴史が良く解った(2)
- 参考になりました(2)
- 資料と収集された貴重なお話しに感銘しました
- とても詳しくご説明いただき感謝いたします
- 地元密着(地元史)で興味有り(2)
- 労作お疲れ様でした、よかった
- 多数の資料による講話で内容豊富だった
- スライド使用でわかり易かった
- 歴史的にも小柴が存在感大きかったことが良く理解できた
- プレゼン画像が立派だった
- 詳細な資料に基づく、的確な解説
- 横浜に来て50余年、金沢区に移り住んで40数年経つが近隣の歴史について知ることが出来た
- 身近な処のテーマ非常に興味深かった
- 私は柴町に転居して14年、マンション群の中で住んでいますが柴町は鎌倉時代からの古い土地であることを知り、柴町に愛着を感じる事ができた。映像を使っの講演でわかりやすかった

- ・私の母親が本牧で漁師(海苔)をしていたことがあったので、同じ漁村ということで大変興味深く拝聴した
- ・横浜の事業計画に基づいた小柴の歴史(金沢共に)良くわかりました。生まれた所が金沢八景だった様で歴史がわかって良かったです
- ・応長の大津波も改めて大津波だった事が分かりました
- ・家田洋文氏の事、知りませんでした
- ・少し聞きとりにくいことを除けば大変良かった
- ・資料は帰宅後読み返しますが、ご説明は残念ながらききにくかったです
- ・オーバーヘッドの字が小さすぎて見づらかったです
- ・体系的に調べてまとめて頂きました。一画面は最大 10 行位の方が見やすい
- ・立派な資料です。資料の多さにびっくりです。画面も良く整理されていたのですが、もう少し字が大きければ良かったです。
- ・もう少し絞り込んだ方が良い
- ・一漁村の歴史は良くわかったが、その地域に住んでいる訳ではないので、余り興味なし
- ・米軍海上施設として、陸上部が返されたのと海の接收分残してあるのがどう理解すべきか知りたい

3. 太田講師に希望する講演テーマについて

- ・地元の歴史を発掘したもの
- ・今後も今日のようなテーマで講演を願いたい
- ・金沢地先の埋立て以降の話を改めて聞く機会ができればいいと思う
- ・六浦在住のため、六浦関連のテーマ
- ・大津波/戦時体制等
- ・他の地区の事をお聞きしたいです

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
16名	27名	0名	11名

- ・小柴の歴史が具体的に説明されていた
- ・一村一寺、4 家族(4 姓)で成り立っていた漁村は珍しい、小柴の歴史は初めて知った
- ・「小柴」という狭い地域を極めて詳細に歴史的調査をなされたものと感動しました。サスガ、太田さん!
- ・資料に沿ってのスライドが明快で限られた短時間内の理解を得る
- ・新会員にも良く理解出来た
- ・勉強になりました、金沢を知る良い機会を戴きました
- ・内容が多く、多岐にわたり学習時間が短かったのは惜しい、2回に分けて欲しかった、パート I、II とか
- ・小山さんがせっかく来られたのでお話をされる機会をとり入れたらよかったと思う

- 家に帰ってから資料をゆっくり読みたいと思います
- ていねいな資料を作成して頂きご苦労様です
- 配布された資料を事前に拝見できていればもっと良かったと思う
- 歴史に埋もれた小柴地区を掘り起こされたことに感謝します
- 皆様、熱心に運営されていて良かったです、ありがとうございました
- マイクの音が聞きにくい時があった(2)
- 空調が効き過ぎて寒かった
- 総会の時間の運営に一考の所があったが良かったと思う
- 受付の流れが良かった
- 進行がしっかりしており内容の濃さを助長している
- 大変な苦労もおありと思いますが、{“今日”がスタートに感じられる様に頑張ります}よろしく願いします。
- 役員、関係者の方々の努力が良く解りました

5. “わ”の会について

- 新運営委員の皆様のご活躍を期待しています、今井様・金間様大変ご苦労様でした
- 新体制に期待しています、今迄も面白い企画が数多くありましたが、増々の充実をお願い致します
- 年々分科会が充実しており好ましい状況
- 学習会で金沢区の地形について解説する機会を取上げて頂ければ有難いです、最近進歩しつつあるデジタル地図情報についても
- 随分しっかりした組織で堅苦しささえ感じます。会員同士が気軽に歓談できる会であってほしいと思います
- 皆様がこれほど熱心とは存じませんでした。今後共皆様と一緒に学べれば…と期待しています
- 新体制スタートおめでとうございます、運営委員も増えたことでもあり、新企画案を期待しています
- 新会長の議事進行が簡潔で今後の活躍が期待できる
- 新年度、新体制でガンバって下さい(2)
- いつも献身的な縁の下の力持ちのご貢献、感謝しています



小柴港

(追)

平成 28 年度横浜市史資料室展示会「豊かな海と暮らし」 ～金沢区柴の昭和史～

7月16日(土)～9月22日(木・祝)

横浜市中央図書館地下1階ホワイエ(ホール前)で開催されていますので是非来場して見て下さい。

豊かな海と暮らし

～ 金沢区柴の昭和史 ～

横浜市域の臨海部には、地先で獲れる海の幸を生活の糧に生きてきた沿岸漁業の歴史があります。20世紀初頭の明治後期から、戦後にかけて、工場用地造成のため大規模な海面埋め立てがなされ、沿岸の漁場が失われていきました。市域海岸線の西南端に位置する金沢地区の大規模埋め立ては、高度成長期にかかり、工場用地、大学、市場、住宅などの多目的用途に供するものになりました。そのようななか“小柴”と地元で通称される金沢区柴町には漁港が残り、現在も盛んに漁を営んでいます。

今回の展示は、小柴の沿岸漁業の取り組みを、戦後高度成長期に技術革新があった海苔養殖を軸に紹介し、環境変化にあわせて変容する、地域のありさまをとらえます。

展示構成

- 1 明治～昭和前期の横浜市域漁業と小柴
- 2 戦後小柴漁業の出発
- 3 高度成長期小柴の漁業
- 4 海苔養殖技術の「高度成長」
- 5 金沢埋め立てと漁業権の喪失
- 6 「あしたあにゃあど…」から海の資源管理へ
- 7 小柴の女性と若者
- 8 小柴を鳥瞰する

◎市史資料室展示コーナー
「柴漁業組合文書にみる明治・大正・昭和」



▲小柴の漁と土砂搬出のベルトコンベアー 昭和43(1968)年
小山紀雄氏蔵



▲海苔すき機械 昭和45(1970)年ころ
小山紀雄氏蔵



▲竹ヒトによる海苔づくり 昭和35(1960)年ころ
小山紀雄氏蔵

展示解説

①8月6日(土) ②8月30日(火) 申込不要 参加費 無料
時 間：午後2時～1時40分程度
集合場所：展示室会場(横浜市中央図書館地下1階ホール前ホワイエ)

展示関連事業

講演会「横浜の漁業とその変容」

●横浜の海面埋立と漁業の歴史
田中常義(元横浜市港湾局理事・港湾整備部長)

●暮らし、海とともに―柴漁業の歴史の変遷
平野正裕(横浜市史資料室主任調査研究員)

●「小柴の海苔づくり」上映
解説/小山紀雄(元横浜市漁業協同組合組合長)

日 時：8月28日(日)午後1時30分～午後4時30分(開場：午後1時)
会 場：横浜市中央図書館地下1階ホール
募集人数：160人(ただし、応募者多数の場合は抽選となります。)

**事前申込制
参加費 無料**

申込方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、以下の宛先にお送りください。
※はがき1枚につき1名様のみのご応募とさせていただきます。

送 付 先：〒220-0032 横浜市西区老松町1 横浜市中央図書館地下1階 横浜市史資料室 講演会係

問 合 先：045-251-3260(横浜市史資料室)
締 切：8月22日(月)必着

◆講演会で手話通訳を希望される場合は8月22日までに横浜市史資料室に御連絡ください。

主 催 横浜市史資料室 協 力 横浜市中央図書館



▲海苔洗い・土砂搬出作業 昭和44(1969)年ころ
小山紀雄氏蔵

横浜市史資料室

〒220-0032 横浜市西区老松町1 横浜市中央図書館地下1階

TEL. 045-251-3260

FAX. 045-251-7321

e-mail so-sisiryu@city.yokohama.jp


横浜市史資料室 検索

アクセス

横浜市中央図書館地下1階

[交通]

- 京浜急行「日ノ出町」駅から徒歩5分
- JR・市営地下鉄線「桜木町」駅から徒歩10分
- 市営バス停「野毛坂」下車1分(103系統)
- 市営バス停「中央図書館」下車1分(89系統)



第2回学習会

南北朝 ①

鎌倉幕府滅亡と観応の擾乱

開催日：平成28年6月11日（土）

13：30～16：00

会場：金沢地区センター

講師：東洋大学 講師

細川 重男 氏



講師：細川 重男 氏

【概要】

正中の変・元弘の変

正中元年（1324）後宇多上皇が逝去すると、皇太子邦良がしきりに幕府に対して踐祚の働きかけを行ったため、自らの皇位に不安を覚えた後醍醐は、倒幕の動きに出る。その計画は無礼講と呼ばれる会合で練られていたが、実行に至る前に内通により六波羅に漏れ、未遂に終わった。この事変では、首謀者とされた日野資朝が佐渡ヶ島に遠島となったが、日野俊基は放免、後醍醐には何の沙汰もなかった。元弘元年（1331）後醍醐の再度の倒幕計画も、再び内部の密告から幕府に露見する。幕府は、ただちに兵を京都に送り、首謀者の日野俊基及び幕府調伏の祈禱を行った僧文観・円観を捕えた。日野俊基と佐渡に流罪中の日野資朝は切れ、二人の僧は遠島となったが、この度も後醍醐には特段の沙汰はなかった。ところが、その3カ月後醍醐は秘かに京都を脱出し、奈良の笠置寺に入り、反幕の動きに出た。かくして動乱の膜が切っておとされることになった。

幕府は、大軍を送ってこれを鎮圧、後醍醐は捕えられて隠岐の島への遠島となった。しかし、

動乱は治まらず、吉野からは後醍醐の皇子である護良親王が、令旨を発して各地の武家・悪党に拳兵を呼びかけなどの抵抗を続けた。その呼びかけに応じた悪党の一人が、かの楠木正成である。

鎌倉幕府滅亡

畿内・西国において反幕の動きが広がりを見せるなか、元弘3年2月後醍醐は隠岐の島を脱出し、伯耆の名和長年を頼り船上山に立て籠った。こうした情勢の中幕府は同年4月名越高家・足利尊氏を大将とする大軍を送り鎮圧の動きに出た。この時、後醍醐との間で事前の密約があったとされる尊氏は、鎌倉幕府に反旗を翻し突如として六波羅の攻略に向かった。鎌倉幕府の武家の棟梁であった尊氏の反乱に、六波羅は忽ち征服されて京都は朝廷の支配には入ることになった。

これと時を同じくして、関東では上野の新田義貞が拳兵し倒幕の進軍を開始した。本来、義貞は倒幕を進められる程の戦力を保持してはいなかったが、足利尊氏という、鎌倉幕府の御

家人の棟梁が反幕の動きに出たことにより、関東一円・南奥州の武家勢力が貞義のもとに結集し、鎌倉へと進撃したのであった。これにより、元弘3年5月、鎌倉東勝寺において、北条一門は悉く自害し果てて、ここに鎌倉幕府は滅亡したのである。

建武の新政

元弘3年6月後醍醐は京都三条宮小路の御所に入る。この時、幕府の意向を受けて即位していた光厳天皇を廃し、後醍醐を重祚した。目指したのは「公家一統」の政治であり、「朕の新儀は未来の先例たるべし」の意欲に満ちたものであった。かくして、平安中期の徳ある天皇の治世を理想とする後醍醐の建武の新政の開始となったのである。その理想を実現させるため、後醍醐は院政・摂関の廃止、家格や特権化した職制の打破などに意欲を燃やしたが、これらの改革の理念は律令時代の復活を意図しただけではなく、彼が並々ならぬ関心を寄せていた中国宋の文官登用による皇帝中心の専制政治の支配体制を構築することにあつたのではないかとされている。そして、その政治理念を実現させる担保として、組織の人事体制の改革をはじめ、記録所・恩賞方・訴訟決断所（所領問題解決部署）や、治安維持のための窪所・武者所・検非違使庁などを次々と設置するとともに、自らの発する論旨こそが唯一の決定の根拠であることを強く主張したのであった。だが、その性急な専制的改革新政は、成功するに至らず、わずか3年足らずで崩壊するのである。

建武新政の崩壊から南北朝の対立へ

後醍醐天皇による建武の新政にたいしては、武家や公家のみならず全国の民衆もまた不信・不満を募らせていた。「此比都にハヤル物、夜討、強盗、謀論旨、召人、早馬、虚騒動、生頸、還俗、自由出家」の書き出しで始まる京都二条河原の「二条河原落書」からも、そうした世相を読み取ることができるのである。また、新しい体制が力によって成立した時、これを転

覆させようとする旧権力の反乱が起きることは、歴史的にも珍しいことではない。建武新政に於いても、旧幕府政権の流れを汲む一統が反乱を起こすのに長い年月は要しなかった。建武2年(1335)7月、北条高時の遺児時行が、信濃の諏訪氏の支援を得て拳兵、足利直義が守っていた鎌倉に攻め入り、これを攻略した。尊氏は、後醍醐の承諾を得ないまま、直義応援のため鎌倉を攻め、8月には鎌倉の奪還に成功した。この戦いを、「中先代の乱」という。この時後醍醐は、恩賞として、尊氏を従二位に叙するとともに、速やかに京都に帰還するように命じ、併せて、尊氏が自軍の兵士に許可なく恩賞を与えることを禁じた。しかし、尊氏は既に、配下の武士に占領した土地を分与するなどの恩賞を実施しており、後醍醐の上洛命令も、恩賞禁止の措置も拒否して鎌倉に居座り、建武2年、後醍醐と尊氏の敵対関係が始まるのである。しかし、この事態の中で尊氏が避けたかったのは、世間からの「朝敵」との指弾であった。それに利用されたのが、先に後醍醐により廃位とされていた持明院統の光厳院であった。復権を狙っていた光厳院と大義名分を得たい尊氏との利害が一致し、尊氏は光厳院から「早々凶徒ヲ退ケテ君ヲ本位ニ付ケ奉ルベシ」という院宣を得ることに成功したのであった。

その後、後醍醐勢力と尊氏勢力は抗争を続け、一旦九州に落ちた尊氏が、体制を建て直し、再度京都に攻め登ると、後醍醐は比叡山に逃れた。かくして、建武3年光明天皇（光厳の弟）が践祚し、併せて建武式目17条が制定されるに至った。これは、北朝の成立と室町幕府の成立を意味するものとなった。一方、後醍醐は大和の吉野に逃れ、延元元年(1336)南朝に拠った。こうして、明德3年(南朝)・元中9年(北朝)の両朝合併まで以後56年に及び南北朝の対立の時代が幕を開けたのであった。(合併は1392)。

(田中徳明 記)

2016年度第2回学習会アンケート集計

1. アンケート集計

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	64	8	72(68.6)	0	72	
女	6	1	7(41.2)	0	7		
計	70	9	79(64.8)	0	79		

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
33名	19名	0名	1名

- ・プリントの文字が大きく、助かります
- ・声が大きく、元気が良く好感持てました(2)
- ・大きな声で聴きやすかった、系図等もありわかりやすかった
- ・筋道よく良く理解出来た、ただ力が入りすぎたためか、声が割れたのが残念
- ・ざっくばらんで話が旨い
- ・すぐれた話術で参加者をひきつけた、よく理解できた
- ・独特の講義、進め方、話術で興味あった
- ・時々ユーモアが入り聞きほれる
- ・いつも歯切れのよい語り口で聴きやすく退屈もしないで楽しく時間が短く感じる(2)
- ・よどみなく話が進み、大変興味深かった
- ・漫談を聞いているようで楽しかった
- ・非常に分かり易い講演だった(8)
- ・相変わらずの語り口であきさせない
- ・年表がとても良かった
- ・話が面白い(2)
- ・むずかしかった(2)
- ・1335~1336の間分かり易い解き方での説明でおもしろかったですね。
- ・人名が後から後へと出て来て話についていけず難し過ぎた
- ・従来ふれられていない時代で良かった
- ・南北朝の天皇と足利の関係を詳しく教えてもらった
- ・難解な南北朝時代及び足利幕府内の争いなど大変興味深く拝聴した
- ・南北朝の鎌倉幕府から室町時代への移行が良く知る事ができた
- ・南北朝時代のややこしい人間関係がよく判った
- ・南北朝の事がよく分った(3)
- ・南北朝が年号2通りあることは知らなかった、歴史の時間でも教えてくれなかった
- ・南北朝はとっつきにくい話が上手いのであきさせなかった
- ・後醍醐天皇の波乱の生涯を具体的に説明していただいた
- ・鎌倉幕滅と後醍醐天皇なれ合い
- ・鎌倉をめぐる諸ごちゃごちゃが南北朝からの切り口でいくらかスッキリわかった
- ・新味なし、レジメNO.5の1348年「賀名生」は「賀名庄」でしょう

- 分かり易い説明であったが、事件の経過説明に終始し過ぎて、新史実・新説の紹介が欲しい
- 乱の起きる原因は勢力争いの図であることの歴史的な解答の一つ
- 興味のあった“観応の擾乱”前段階の後醍醐、護良親王のこと北条時行の“中先代の乱”足利兄弟のこと細川先生の面白い説明でした、良く分かりました
- 直儀と尊氏と高師直の関係とその先が楽しみでならない
- 歴史はほぼ筋道が出来ている(過去の歴史)のでどう理解していくかです。こんな考え方もあると聞くにはとても面白いと思いました。ドラマ感が有りました。
- 話があちこち飛んでどうまとめるかと思いましたがうまく観応の擾乱にまで話をまとめたところが見事です、さすがプロです
- 鎌倉幕府滅亡から観応の擾乱までの出来事を分かりやすくかつ面白く話して頂いた、次が楽しみ
- 観応の擾乱は面白い、中世がよくわかる
- むずかしい太平記の混乱時代をわかり易く説明頂きました、素晴らしい内容でした
- 話が若者向きのジョークがなめらかな例
- 表現はやや下世話だが登場人物含め肝となる部分の表現が面白く分かりやすいのが良い

3. 細川講師に希望する講演テーマについて

- 鎌倉幕府
- 中世政治(2)
- 高師直について
- 続きを待っています
- 戦国時代前期の関東の状況
- 室町時代以降順次講演して頂きたい

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
26名	20名	1名	7名

- 準備がスムーズで気持ち良かった
- 受付・司会共々スムーズでした
- 司会を含めスムーズで先生の熱弁がおもしろい
- 携帯の音が時々聞こえていたがマナーモードにするように最初に注意すべきでは(3)
- 午後 1 時半の開始は余裕があって良い
- 時間通りに進んだ(3)
- 楽しく勉強できた
- 音量、話し方が後部席でもよく聞き取れた
- 講演内容が良いと思われま
- 良いテーマを選んでもらいました
- 今回の講演に関する参考本を推薦してもらおうといい
- 北条義時は大変巧みな陰謀家で国賊であると思うが先生の意見を聞かせて下さい
- 運営委員の方々の動きですこぶる良い学習会でした
- 次回を楽しみにしております

5. “わ”の会について

- 5月総会時、会報 57 号頂いたが 56 号頂いていない、受付時申し入れたが回答無し
- 現状で良い

第3回学習会

南北朝 ②

観応の擾乱から両朝合一

開催日：平成28年7月9日（土）

13：30～16：00

会場：能見台地区センター多目的室

講師：東洋大学 講師

細川 重男 氏



講師：細川 重男 氏

【概要】

6月の学習会に引き続き南北朝の2回目である。今回はいよいよ南北朝動乱のハイライトである観応の擾乱から両朝合一までである。講師の細川先生は、鬼の霍乱か、この講演の数日前まで体調

を崩され寝込んでいたとか、我々の心配をよそに、さっそうと登場、例の元気な細川節を披露、皆を安心させた。

1348年（正平3、貞和4）北朝方の高師直軍が、後醍醐天皇の跡を継いだ後村上天皇率いる南朝に猛攻を加え、皇居などの建物すべてを焼き払い、吉野は灰塵に帰し、ここに北朝方の優位が決定的となった。後村上天皇は吉野を脱出、同じ吉野の賀名生（あのう）に逃れ、ここに新たな皇居を構えることになった。この賀名生は穴生から改名した地名で「かなう」と読めることから、京都への帰還を願う南朝方の強い執念が感じられる。南北朝の戦いが一段落すると、武闘派の師直等の活躍の場がなくなり、相対的に足利直義の力が大きくなっていく。あらゆる面で絶対に相容れない両者は、ついに1349年政治的な衝突を起し、師直は執事職を罷免される。これに対し師直は弟の師泰と共に軍事クーデターを起し、直義を失

脚させる。尊氏の嫡子・義詮を鎌倉から呼び寄せ、直義に代わって政務を執らせる。一方直義は1350年（正平5、観応元）京都を脱出し、師直・師泰討伐のため挙兵、観応の擾乱の勃発である。北朝が直義追討の院宣を発したのに対し、直義は敵方である南朝に降伏するという奇手に出る。これは軍事行動が朝敵になることを避けるための措置と考えられる。尊氏・師直軍は、翌年の2月摂津の打出浜で南朝軍（直義軍）に敗れ講和するが、京都へ戻る途中、師直、師泰は直義の配下の者に誅殺される。（ここまでが観応の擾乱の前半部）

尊氏と直義の和睦が成り、幕府内の秩序が戻ったかに見えたが、幕府内で直義の力が強くなるに伴い政務を執る義詮との対立が表面化してくる。

当然義詮の背後には尊氏がいた。1351年直義は身の危険を感じ北陸に逃れ、その後鎌倉に入る。尊氏は直義討伐を決心するが、南朝方の動向を危惧し、自ら南朝に降伏し和睦を図る。その結果、北朝は廃され、観応の年号を止め、正平年号に統一された。これが「正平一統」である。直義追討の院宣を得た尊氏は京都を義詮にまかせ直義討伐のため鎌倉に向かう。戦いの結果、直義は敗れ鎌倉浄妙寺の延福寺に幽閉されるが翌年の2月に急死する。尊氏の毒殺との噂がある。尊氏が京都に戻ると南朝との和睦は当然ながら破綻した。南朝方は京都を撤退する際、北朝の主な皇族と三種の神器を吉野に持ち去った。何もなくなった北朝の再建は困難を極めたが、後光厳天皇の擁立にこぎつけ、体制を維持することができた。(ここまでが観応の擾乱の後半部)

尊氏の後を継いだ二代将軍義詮は両朝合一のため南朝の掃討と和睦交渉を繰り返すが実現できなかった。その後三代将軍となった義満は幕府の支配体制を確立し、天下統一の最終仕上げとして取り組んだのが、将来に火種となりかねない南朝の併合である。そこで義満は和睦派の後龜山天皇に目をつけ、和睦条件として①三種の神器を北朝の後小松天皇に譲渡し「讓国の儀」とする ②皇位継承は旧南北両朝より「相代」に行う ③旧南朝方に「諸国国衙領」を支配させる 以上の3条件を提示、これに満足した南朝は1392年(元中9、明德3)この和睦案を受け入れ、約60年

続いた南北朝の動乱は終焉し、両朝合一が成ったのである。しかし、これらの条件はその後何一つ履行されなかった。

両朝が統一された1392年から1479年(文明11)までの約90年を、南朝のその後という意味で後南朝と呼んでいる。弱体化したとはいえこれだけ長期間存続できた大きな理由の一つは、後醍醐天皇の皇胤達による先の3条件の履行要求であり、いま一つは幕府に不満を持つ勢力が旧南朝の皇胤を担ぎ、軍事行動を起こす際の名分と結集を呼び掛ける旗印を獲得するためと考えられる。

最後に、後南朝の歴史は文明年間で途絶えるが、この後遠く時空を超えて現代に影を落とす、そんなエピソードを一つ。終戦直後(昭和21年)名古屋市に住む熊沢寛道という者が、私が南朝の末裔で正当な皇位継承者であると主張し、昭和天皇に退位を求めた事件で、世間を大いに驚かせた。その後天皇不適合等の訴訟を起こすが何れも却下された。

講演を聞いた感想としては、幕府の内部抗争に伴って目まぐるしく変わる両朝の立ち位置、合一における義満と後龜山天皇のやり取り、普段あまり聞けない後南朝の事など、興味深い話が多かった。ただ、年号名(両朝)、天皇・皇族名、将軍・武将名が余りにも多く、話についていくのが大変であった。(山腰策次郎 記)

2016年度第3回学習会アンケート集計と実施報告

1. アンケート集計

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	計	アンケート(提出率%)
	男	52	8	60(57.1)	0	60	
女	8	1	9(52.9)	0	9		
計	60	9	69(56.6)	0	69		

2. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
22名	16名	2名	1名

- 話題が豊富でおもしろかった
- 上手な独特の説明(珍しい講師)
- 声が通るので聞きやすい
- 聞きやすかったが少々むずかしかった
- 聞きにくい言葉も多少あり
- 楽しい歴史の講座でした(2)
- 南北朝時代の複雑な動乱の様子がよくわかった
- 大変入りくんだ南北朝時代についてわかり易く解説頂き良く理解できた(4)
- ややくし難解な南北朝について少々理解がすすんだ
- 複雑な難しい南北朝時代を判り易く楽しく拝聴しました。ありがとうございました。(3)
- 南北朝の人物像、具体的で小説より奇なりの思いがした
- 日本歴史の中で最も不安定な時代と言われる南北朝の時代の実像を具体的なケースで解説してもらえた事
- 南朝と北朝の朝合の状況がわかった
- 頭の中でゴチャゴチャしていた南北朝時代がかなり整理できた
- 点ポイントの解説でこれを線とするのが精一杯です、とに角南北朝時代を理解するのは複雑すぎますね
- 南北朝時代は難しく理解しにくいですが南北朝年表や足利氏関係系図を駆使して理解が少ないながら分かった
- 名前や位が様々変わっていったので、混乱しているがわかりやすい話し方をしていただいたのでおもしろく拝聴できた
- 勢力交代がはげしく、物語としては面白かった。しかし人名については良く理解できず難儀する、話の展開はおもしろい
- 今日の内容はよく聴いていないとこんがらがってしまう内容でしたが、直冬方の年号があることを知りました。又、又興味が湧いてきますね、この年代は
- 面白くわかりやすく話されていたが内容の複雑はやはり難解であった
- 多くの新しい知識が与えられた
- 私の勉強不足、知識不足のため、講演についていくのが大変でした、歴史上一番分かりにくい時代かも、しかし、楽しい講演でした
- 前後関係不明、夫々の陣営の関係図が欲しかった、金沢との関連？
- 時間通り、ぴったり

3. 細川講師に希望する講演テーマについて

- 歴史物なら何でも聞きたい
- どんなテーマでも結構ですので今後も引き続きお願いしたい
- 北条政子の本心
- 鎌倉幕府関連/女性の地位等(北条政子、牧の方等も)
- 鎌倉時代の話も是非お願いしたい
- 中世の京・九州
- 是非、是非 中世で先生が「一番おもしろいのはこの話」とする内容をお聞きしたい
- 赤松のことなどうかがいたい
- 南北朝時代(室町時代)の鎌倉・金沢の様子を講義していただきたい
- 保元・平治の乱(~鎌倉~1333年~南北朝)~応仁の乱まで
- 室町中期の関東騒乱について
- この調子で戦国時代もどうでしょうか
- 著作書の展示だけでなく…と願いもあるが
- 金沢の歴史について
- 1390年後の講演を願いたい
- 1467年以降の天皇家に関する講話をききたい

- ・今回の継続年代を連続してほしい

4. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェックなし
18名	13名	2名	8名

- ・むずかしい南北朝の話を判りやすく説明してくれた
- ・降雨、厳しい時間帯でしたが参加者多く驚きました
- ・大変良いです
- ・標準通り、話し方がしっかりしている
- ・激しい雨中の準備御苦労様です

“わ”の会について

- ・出席数について
- ・「足元の悪いところ多数の皆様にご出席いただきました」と言うより出席者数を示した方が理解しやすい
- ・いつもありがとうございます
- ・地元関連のテーマで講演会を企画して頂ければ有り難いです(2016年：小柴の歴史 2017年計画中)
- ・日々お世話様です。今日講師大変良かったです。今後共宜しくご指導願います

<参考図書>

「南朝研究の最前線」日本史史料研究会監修、呉座勇一編、洋泉社歴史新書、1,000円+税
 「日本の歴史9 南北朝の動乱」中央公論新社、中公文庫

運営委員会

学習会欠席時の資料等の取扱い

2013年7月 規則制定

- ① 欠席の場合は、次回学習会で受け取っていただくことを原則とする
- ② 宅配や分科会でお渡しすることは廃止する
- ③ 3回連続して欠席の場合は、その時点までの3回分を処分する

- 注 1) 知人などによる代理受け取りがあった場合は資料配布上は出席とする
- 注 2) 10月と11月の学習会については2月の公開講座で、2月の会報は5月の総会・学習会を受け取りの期限とする
- 注 3) 体調不良等で長期に学習会を欠席する場合で、運営委員会に届けのあった時は、特別に資料等を保管する

第1回 足利氏ゆかりの地を訪ねる

開催日：平成28年6月2日(木)

参加人数：男性33名(内ビジター1名) 女性7名(内ビジター1名) 合計40名

コース：十二所バス停～光触寺(法話拝聴)～明王院～浄妙寺～報国寺～フレンドリー鎌倉(昼食)～杉本寺～荏柄天神～頼朝墓(解散)

本日から三か年計画で鎌倉探訪を開始し、第一回目は足利氏ゆかりの地を巡った。

最初は十二所の光触寺を訪ねる。鎌倉時代に真言宗の寺として創建、四代目住持の作阿上人が弘安5年(1282)に一遍上人に帰依して時宗に改めた。本尊は阿弥陀三尊で国重文、中尊は頼焼阿弥陀として知られる。住職から由来などを拝聴し本堂内を拝観した。境内には伝説で有名な塩嘗地蔵がある。すでに鎌倉時代に塩商人が盛んに行商に出ていたことが窺える。庭にはちょうど花菖蒲が咲いていた。

次は明王院へ、鎌倉幕府四代将軍藤原頼経が発願し嘉禎元年(1235)に創建、鬼門除けの祈願時として当初は五大明王を祀った。寛永年間に火災があり不動明王以外すべて焼失、現在は茅葺屋根の本堂に不動明王とともに江戸時代に再建された四体の明王が祀られている。境内に一願水掛不動尊があり、それぞれが願いを願った。なお境内撮影禁止であった。

続いて鎌倉五山の第五位浄妙寺へ、頼朝の重臣、足利義兼が建立した寺、初めは真言宗で極楽寺という、その後禅宗に改宗、元弘元年(1331)寺名を浄妙寺に改めた。最盛期は室町時代で足利氏の保護により、七堂伽藍が軒を並べ、塔頭23院を誇る。現在でも付近一帯の地名は浄明寺である。

次は竹の寺とも呼ばれる報国寺。開基は足利家時とされるが実際に寺を創建したのは宅間上杉氏の祖で

ある上杉重兼で家時は勧請開基と考えられている。境内には昔から足利尊氏の父の貞氏の墓とされる逆宗塔(生前に建てる供養塔)があるが、銘文等から貞氏の宝篋印塔ではない可能性が高いとされている。境内の孟宗の竹林はいつ来ても見事である。

フレンドリー鎌倉の屋外炊事場で昼食を済ませて杉本寺に向かう。天平三年(731)に行基が開山、光明皇后が天平六年に本堂を建立したとされる鎌倉最古の寺。本堂内には三体の十一面観音像が安置されているが、格子戸奥で残念ながら良く見えない。行基作と伝承される観音像は伝説に基づき覆面観音、下馬観音とも呼ばれる。

次は荏柄天神へ、創建は長治元年(1104)。頼朝が幕府の鬼門の守護神として崇敬したとされる。本殿は鎌倉時代末期に建てられた貴重な建物で、鶴岡八幡宮の旧若宮社殿を移設したものとされる。

最後は53段の石段を上り源頼朝墓へ、現在の石塔は頼朝の子孫と称した島津藩主重豪が安永八年(1779)大御堂から移した層塔を補修したもの。隣には平治の乱以降、会うことのなかった実弟希義の墓所の土と石が運ばれて、835年ぶりに再会させたとの看板がある。

近くの公園前で終わりの挨拶を交わし帰途についた。初夏の好天に少し汗ばみながらの一日であった。

(横山 美智男 記)



第2回 緑の中に佇む浄妙寺を訪ねる

報国寺の竹林

開催日 : 平成28年7月7日(木)

参加人数: 男性29名 女性7名 合計36名

コース : <半日コース> 円覚寺~円覚寺塔頭寿徳庵(本尊特別拝観)~東慶寺(松岡宝蔵含む)~東慶寺鐘楼横(解散)

最初は北鎌倉駅前の円覚寺を訪ねる。総門前で資料配布、境内に入り挨拶の後、NPO法人鎌倉ガイド協会の案内で班ごとに出発する。総門には山号「瑞鹿山」の額を掲げ、山門には寺号の「円覚興聖禅寺」の扁額を掲げて、楼上には、十一面観音像と十六羅漢を祀る。瑞鹿山円覚興聖禅寺は、鎌倉五山の第2位、臨済宗円覚寺派の大本山である。開基は北条時宗、開山は宋の名僧無学祖元、本尊は宝冠釈迦如来である。

弘安5年(1282)執権北条時宗が蒙古襲来(文永・弘安の役)で戦死した味方ばかりでなく敵方の霊をも慰めるため、宋から招いた無学祖元を開山として建立したという。

当寺には伝説が多いという。寺名や寺地は時宗と蘭溪道隆により選ばれたが、工事を始めると地中から石櫃が出てき、中に円覚経が納めてあったので、それに因み円覚寺にしたという。また山号については、祖元が開堂供養の説法をしていると、一群れの白鹿が人びとに混じって聴聞したところから、瑞鹿山と名づけたという。現在の仏殿は昭和39年(1964)鉄筋コンクリート造りで建てられ、本尊の宝冠釈迦如来と持仏像の梵天、帝釈天が安座されている。天井には、日本画家前田青邨監修、守屋多々志揮毫の白龍図が描かれている。

円覚寺はかつて塔頭が41存在したが現在では18院という。今回はそのうちの一箇所「円覚寺塔頭寿徳庵」を特別拝観した。仏殿のわき道を通って左手の

山道を登ると円覚寺66世中円の塔所「寿徳庵」である。本尊の聖観世音菩薩、中円の木造座像が祀られている本堂内を拝観した。墓地には中興開基の三浦道寸と一族の墓がある。道寸は戦国初期の武将で、北条早雲に滅ぼされた。円覚寺門前の石段を下り白鷺の池を左右に見て次の目的地に向かうが、バスの通る県道も横須賀線も実は円覚寺の境内を貫いている。

次に東慶寺。松岡山東慶総持禅寺で臨済宗円覚寺派である。北条時宗の妻が出家して覚山尼となり、夫の菩提を弔うために、円覚寺に遅れること3年、つまり弘安8年(1285)に建立した尼寺である。この寺は、寺内に駆け込めば女性の側からも離縁できるという、縁切寺だった事で知られている。明治になって縁切寺法は廃止され、住職も男性の僧に代わった。

山門をくぐると、すぐ左方に鐘楼がある。これは材木座の補陀洛寺にあった鐘で、東慶寺の鐘は伊豆葎山の本立寺に移されたといわれている。本殿はこの寺が誇る梅や萩、竹林などに包まれて季節を彩っている。茎の先端に青紫色の花を開く夏の桔梗も「花の寺」にふさわしく美しく咲いていた。梅林の奥に以前あった仏殿は明治40年(1907)、横浜の三溪園に移築されて今日に及んでいる。本尊の釈迦如来像、覚山尼、用堂尼、天秀尼の安置されている本堂に上がりお参りする事ができた。聖観音立像の仏像のほか、縁切寺だった当時の様子をうかがわせる証文や離縁状などの展示品を松岡宝蔵で拝観した。(金久保常二 記)



円覚寺仏殿にある御本尊「宝冠釈迦如来」



東慶寺本堂(泰平殿)

「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 NO.19

代表 佐藤 晃

平成28年度第1回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016・4・11〉

マディソン郡の橋 The Bridges of Madison County

製作：1995年 米国 上映時間 135分
監督：クリント・イーストウッド
原作：ロバート・J・ウォラー
主演：クリント・イーストウッド、メリル・ストリープ

（あらすじ）

89年の冬。アイオワ州マディソン郡、フランチェスカ・ジョンソン(メリル・ストリープ)の葬儀を出すために集まった長男のマイケルと妹のキャロリンは、母の遺書に「死んだら火葬にしてもらいたい」とあるのに当惑する。二人は彼らにあてた母の手紙と日記を読み始める……

65年秋、フランチェスカは結婚15年目で単調な生活を送っていた。夫のリチャード(ジム・ヘイニー)と二人の子供はイリノイ州の農産物品評会に出かけ、彼女は4日間、一人で家にいることになった。開放的になった彼女の前にプロ・カメラマンのロバート・キンケイド(クリント・イーストウッド)が現れ、道を尋ねた。彼は、珍しい屋根付きのローズマン橋の写真を撮りに来たのである。フランチェスカは彼の魅力に惹かれて、橋まで案内し、その夜の夕

食を誘う。彼が宿に帰った後、「明日の晩もう一度いかが」と書いたメモを、明朝の撮影に彼が訪れる橋の上に貼った。翌晩、二人は打ち解け、ダンスを踊り、自然のなりゆきで結ばれた。

次の日は、郊外でピクニックを楽しんだ。残り時間が僅かなことに気がついた二人はその夜、親密に抱き合った。最後の朝はぎこちなさと不安の中で迎えた。フランチェスカは「これはお遊びなの？」となじるとキンケイドは「一緒に来てくれ」と答えた。悩み苦しんだ末に、荷物をまとめた彼女だったが、再び家族を思うその姿を見て、彼は去った。

夫と子供たちが帰ると、元の日常の生活に戻った。数日後、夫と買い物に街に出かけた彼女は、降りしきる雨の中で、濡れて立ちつくすキンケイドの姿を見た。彼女は車から出ようとドアのノブに手がかかる……

（解説）

世界中でベストセラーとなったロバート・ジームス・ウォラーの同名小説をもとに、僅か4日間の熟年男女の恋を情緒豊かに描いたラブロマンス映画である。クリント・イーストウッドが製作、監督、主演を務め、家族のために恋をあきらめる切ない思いを抱く主婦をメリル・ストリープが好演した。ストリープはアカ

デミー主演女優賞にノミネートされたが惜しくも賞を逸している。

映画は原作の書かれた同じ場所で撮影され、美しい田園風景が、はかない4日間の恋を生かしている。

本映画撮影時、イーストウッド65歳、ストリープ46歳であった。

平成28年度第2回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016・4・25〉

舞踏会の手帖 UN CARNET DE BAL

製作： 1937年 仏 モノクロ 上映時間：130分
監督： ジュリアン・デュヴィヴィエ
出演： マリー・ベル、フランソワーズ・ロゼー、ルイ・ジューヴェ、
アリ・ポール、ピエール・リシャル・ウィルム、レイミュ、
ピエール・ブランシャル、フェルナンデル
音楽： モーリス・ショベール

（あらすじ）

イタリアの北部、コモ湖畔の大邸宅に住む未亡人のクリスティーヌ（マリー・ベル）は、夫の死後、社交界にデビューした16歳の時の舞踏会の手帖を発見する。甦る華やかな舞踏会の光景や、「一生あなたを愛し続けます」と耳元で愛を囁いた青年たちの声……。

20年を経て、彼女は手帖の男たちを訪ねる旅に出る。最初に訪ねたジョルジュはクリスティーヌの婚約を知って10数年前に自殺。狂った母親（F・ロゼー）は今も息子の帰りを待っている。二人目の文学青年のピエール（ルイ・ジューヴェ）は弁護士となったが、今はキャバレーの支配人で、裏の顔はギャングの親分。クリスティーヌの目の前で警察に連行される。次のピアニストのアラン（A・ポール）は彼女への思いを託した作曲を無視されたため、恋をあきらめて神父となり子供たちに聖歌の練習をさせていた。詩人エリック（ピエー

ル・リシャル・ウィルム）はアルプスのガイドを務め、政治家志望のフランソワ（レイミュ）は大臣にはなれなかったが、今は町長。女中と結婚式を挙げようとしていた。マルセイユの工場地帯でクレーンの騒音に囲まれて暮らすティエリ（P・ブランシャル）はもぐりの墮胎医で半狂乱の廃人だった。彼女の生まれ故郷でトランプ手品の好きな美容師のファビアン（フェルナンデル）は、彼女を舞踏会に誘うが、現実の舞踏会は野暮ったいものだった。20年前に出会った青年は、皆当時の面影は消え失せ、人の世のはかなさを感じるだけである。失望したクリスティーヌは屋敷に戻った。そこで、最愛の恋人だったジェラルムがコモ湖の対岸に住んでいることを知り、訪ねるが、亡くなったばかりだった。亡くなった父に生き写しの息子を彼女は舞踏会に連れていく。白いカーテンに踊る男女のシルエットが舞い続ける。

（解説）

ジュリアン・デュヴィヴィエはこの映画の主題を「夢のはかなさ、過ぎ去った時の残酷さ」とし、それをオムニバス（乗合自動車）形式で表現した。

未亡人クリスティーヌを演じたのは気品あふれる美貌のマリー・ベル。訪ねるかって愛を囁いた6人の男性に、当時のフランスを代表す

る一流の演劇界、映画界の重鎮を配し、加えてフランソワーズ・ロゼーが狂気の母親を演じて、これ以上ない贅沢な映画とした。まさに名優の競演である。旅を続けながらクリスティーヌは現実の残酷さを知る。映画の底を流れるのはペシミズムである。

平成28年度第3回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016・5・9〉

博士の愛した数式

製作：2005年「博士の愛した数式」製作委員会製作

上映時間：117分

監督：小泉堯史

原作：小川洋子

脚本：小泉堯史

出演：寺尾聰、深津絵里、吉岡秀隆、浅丘ルリ子、

(あらすじ)

新学期、生徒から“ルート”と呼ばれる数学教師(吉岡秀隆)は最初の授業で、何故、自分のあだ名が“ルート”とつuitたのかを語り始める。彼が10歳の頃、母親のシングルマザーの杏子(深津絵里)は家政婦として働き、女手一つで彼を育てていた。ある日、杏子は、ここ数年間で9人も担当が変わったという家を紹介された。面接のために派遣先を訪れた杏子を迎えたのは上品な身なりの婦人(浅丘ルリ子)だった。

母屋に住む彼女は、世話をするのは離れに暮らす義弟(寺尾聰)であること、離れの問題は決して母屋に持ち込まないこと、そして、義弟は交通事故で記憶が80分しか持たないことを説明した。義弟は優秀な数学博士であっ

たが、事故に遭い、それ以来、80分しか記憶を維持することができなくなったという。博士は大学教授の職を失い、義姉の世話になっている。働き始めの日、玄関に現れた教授は、大事なことを忘れないために、洋服にクリップを多数付けていた。一番先に教授は杏子に靴のサイズを聞き、24と答え、「ほう、実に潔い数字だ。4の階乗だ」という。この奇妙な問答は博士の考えた他人との交流方法だった。

数字が言葉の代わりになるというもので、毎日交わされるこの会話は、杏子にとって新鮮な驚きの連続だった。やがて、博士の提案で、息子も博士の家を訪れるようになる。息子の頭をなでた博士は頭のてっぺんが平らだったことから、ルートと名付けた……

(解説)

50万部のベストセラーとなり、第1回本屋大賞受賞作、小川洋子原作の「博士の愛した数式」の映画化である。

監督は黒澤明監督の愛弟子で、この映画の主演を演じた寺尾聰とは『雨あがる』、『阿彌陀堂だより』でコンビを組んだ小泉堯史。

日本の美しい風土を背景に、人間の暖かい結びつきを描き続ける監督である。今回の映画は、一見無機質に見える「数式」という学問を軸に人間同士の絆や、生きる喜びを与えてくれる映画である。

原作では家政婦が語り手となっているが、映画は家政婦の息子のルートを語り手にしている。中学校の数学教師で、教壇で中学生に数学

の説明をしながら、母と自分と教授の関係を説明する。ルートの数学の説明は分かりやすく、観客は、自分が生徒になった気分で楽しく聞くことができる。そして教授と杏子の間にルートが入ることによって、家族的な親密な関係が生まれてくる。教授は父親のようにルートを慈しみ、ルートは息子のように教授を気遣う。この3人の相手に対する思いやりと優しさが私たちの胸にせまる。

原作ではあまり触れていない教授と義姉(浅丘ルリ子)の関係も映画では大きく膨らませて、義姉の嫉妬と哀しみにも触れ、隠し味のように映画を支えている。数式を通じて家族の温かさ、人間の優しさを描いた優れた映画である。

平成 28 年度第 4 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016・5・23〉

ディア・ハンター The Deer Hunter

製作： 1978 年 米国 上映時間 183 分
監督： マイケル・チミノ
脚本： デリック・ウォッシュバーン
出演： ロバート・デ・ニーロ、クリストファー・ウォーケン、ジョン・サヴェー
ージ、ジョン・カザール、メリル・ストリープ、ルターナ・アルタ
受賞： アカデミー作品、監督、助演男優（C・ウォーケン）、音響、
編集賞

（あらすじ）

ペンシルバニア州のピッツバーグ郊外にあるクレアトンの製鉄所で働くロシア系移民のマイケル（R・デ・ニーロ）、ニック（C・ウォーケン）、スティーヴン（J・サヴェージ）、スタンリー（J・カザール）、アクセル（チャック・アスペグレン）、ジョン（ジョージ・ズンザ）は休日になれば全員で鹿狩りに行く仲の良いグループである。そんな彼らにもベトナム戦争の波が押し寄せ、マイケル、ニック、スティーヴンの 3 名が徴兵された。

3 名の壮行会がスティーヴンとアニタとの結婚式も兼ねて行われた。

一夜明けて、彼らは揃って鹿狩りに出かけ、マイケルは大きな鹿を一撃のもとに仕留めた。ベトナムの米軍は苦戦を強いられていた。マイケルは戦場で偶然にもニック、スティーヴンに

再会するが、ベトナム人民軍の攻撃に敗れて 3 人は捕虜となる。閉じ込められた小屋の中ではロシアン・ルーレットが行われていた。北ベトナムの兵士たちは捕虜に一発の弾を込められたリボルバーの拳銃を渡し、それを自らのこめかみに向け引き金を引かせて、6 分の 1 の確率で犠牲者が出るのを楽しんでいた。銃弾の発射音を聞いて、スティーヴンは発狂寸前となった。

マイケルは冷静に脱出する方法を考えて、北ベトナムの兵に銃弾を 3 発に増やすことを提案した。北ベトナム兵が 3 発の銃弾をマイケルに渡すと、間髪をいれずに次々に北ベトナム兵士を射殺し、ニックとスティーヴンを連れて、脱出に成功した……。

（解説）

1973 年にベトナム戦争が終結し、その 5 年後 1978 年に、それまでハリウッドではタブーとされていたベトナム戦争を題材とした映画が初めて作られ公開された。その映画が『ディア・ハンター』である。マイケル・チミノ監督はこの映画を戦争場面と描くより、徴兵された 3 人の若者の身体と心に与えた影響を丹念に追いかける。スティーヴンは負傷して足を切断して病院暮らしとなり、ニックは精神に

異常をきたしてロシアン・ルーレットの賭場で射手となり、身を滅ぼす。マイケルも同じように心を病み、以前のように鹿を撃つことができなくなる。マイケルは帰国しても友人を危険な目に合わせたという罪の意識を持ったまま生きていかねばならない。マイケル・チミノは、ベトナム戦争が若者たちに深い後遺症を残したことを訴えている。

平成28年度第5回 鑑賞会

〈鑑賞日：2016・6・13〉

オペラ座の怪人 The Phantom of the Opera

製作：2004年 米・英 上映時間：143分
監督：ジョエル・シュマッカー
脚本：ジョエル・シュマッカー、アンドリュー・ロイド・ウェバー
原作：ガストン・ルルー
音楽：アンドリュー・ロイド・ウェバー
出演：ジェラルド・バトラー、エミー・ロッサム、パトリック・ウィルソン

(あらすじ)

1905年、パリ・オペラ座で劇場の備品を処分する公開オークションが開かれている。ラウル子爵は猿が楽器を奏でるオルゴールを購入する。競売人は次に、「オペラ座の怪人」による奇妙な出来事に関係した荒廃したシャンデリアを紹介し、灯りをとらした時、まばゆい光が輝き、場面は1870年のオペラ座にさかのぼる。

グランドオペラ『ハンニバル』のリハーサル中、オペラ座の経営者が変わったことが紹介された時、大音響とともに背景が壊れる。人々は劇場の地下に住む怪人の仕業だと口々に噂をする。座付きのソプラノ歌手カルロッタは怒って歌手を降りたため、代役としてクリスティーヌ（エミー・ロッサム）が起用された。舞台上で

も彼女の美しい歌声は観衆を魅了し大成功を収めた。クリスティーヌはオペラ座の地下に住む怪人にレッスンを受けており、その成果が実を結んだのである。クリスティーヌは、怪人は亡き父が送ってくれた『音楽の天使』だと信じている。たまたま舞台を見ていた幼馴染みの貴族、ラウル（P・ウィルソン）が来て、彼女を食事に誘うが、それを見ていた怪人は嫉妬して彼女を地下の怪人の部屋に連れていく。クリスティーヌは怪人の顔を見たいと、そっと近づき怪人の面を外すとあまりにも醜いので目をそむける。怪人は激怒するが、それでもクリスティーヌに主役を演じさせるために劇場側にさまざまな要求を突き付ける……

(解説)

原作は、20世紀前期のフランスの推理作家ガストン・ルルーの怪奇小説「オペラ座の怪人」。1984年、ケン・ヒルの手により「オペラ座の怪人」が劇化され、それを見たアンドリュー・ロイド・ウェバーは直ちにミュージカル化を決意し、これまで一緒に作品を手掛けてきた名プロデューサー、キャメロン・マッキントッシュに電話連絡してミュージカル化が始まった。脚本、作曲はロイド・ウェバー。クリスティーヌにロイド・ウェバーと恋愛関係にあったサラ・ブライトマンを起用し、製作はスタートした。舞台は1986年にロンドンで開幕し、大ヒットする。英国での成功を経て、ブロードウェイに進出し、上演回数は1万回を超え、現

在もロングラン中である。日本でも劇団四季が1988年に初演、これまでに世界27カ国（2013年現在）で上演され、総動員数は1億3千万人という。映画化は初演後20年近くを経て、ロイド・ウェバー自身が製作を担当して実現した。舞台のイメージを守りながら映画ならではの場面構成。舞台の実写なのか、舞台から離れた映画独自の世界なのか、虚実さまざまな場面が続き観客を魅了する。ロイド・ウェバー版の映画は「怪人」を単なるホラーとして捉えるのではなく人間の悲哀をモチーフにしており、そのロマンチックな要素が人気を呼んだと言われている。

平成28年度第6回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・6・27>

キー・ラーゴ Key . . . Largo

製作：1948年 アメリカ映画 モノクロ 上映時間 101分
監督：ジョン・ヒューストン
主演：ハンフリー・ボガード、ローレン・バコール
原作：マクスウェル・アンダーソン
脚本：リチャード・ブルックス、ジョン・ヒューストン
主演：ハンフリー・ボガード、ローレン・バコール、エドワード・G・ロビンソン、ライオネル・バリモア、クレア・トレヴァー
受賞：アカデミー助演女優賞（クレア・トレヴァー）

（あらすじ）

フロリダ半島の南の小島キー・ラーゴ島に第二次大戦の復員将校、フランク・マクラウド元少佐（H・ボガード）が訪れた。イタリア戦線で失った部下の家族に挨拶するためである。部下の父親のテンプル老人（ライオネル・バリモア）は島でただ一軒のホテルを経営しており、息子の未亡人のノーラ（ローレン・バコール）と住んでいる。ホテルの客はブラウン（E・G・ロビンソン）を頭とする5人の怪しい男たちで、ゲイ（クレア・トレヴァー）という女を連れこんで泊っているだけだったが、フランクは、頭の顔を見て彼が有名なギャングの頭目ジョニー・ロコであることを知った。

ジョニーは偽札を多量に持った仲間が、夜、船でホテルに来るのでそれを待っているのである。そのため、テンプル老人とノーラを拘束

して、脱獄した先住民を探しに来た保安官の部下のソーヤーを殺して仲間を待っている。

戦争のためひどい虚脱感に陥っているフランクは、それを見ているだけである。夜が更けてハリケーンは強烈となった。ロコはホテルに避難してきた先住民を追い払い、情婦のゲイをなぶり始めた。フランクはロコに反抗してゲイをかばった。

数時間後、駆けつけた保安官はソーヤーの死体を見つけたが、ロコは先住民が殺したと言って保安官をだました。やがて、ギャング仲間が来て偽札の取引が行われ、一味は船で逃げる算段をしていたが、ハリケーンのため予約していた船は来ない。ロコはフランクを脅かし、ホテルの船を操縦してキューバへ運べと命令した……

（解説）

原作は劇作家マクスウェル・アンダーソンの舞台劇で、脚色リチャード・ブルックスとジョン・ヒューストンが共同で行った。ドラマは主にホテル内で展開される。ギャングの頭のロコとテンプル老人、フランクの心理的駆け引きが緊迫感を増す。時折反発するテンプル老人が言葉を発する度に、ロコの拳銃の引き金にいつ手がかかるかハラハラさせられる。ここらあたりがハードボイルド映画の真骨頂であろう。ドラマはこれに迫りくる風速90m級のハリケーンへの恐怖が加わり、緊迫感が一層増してくる。クローズアップの巧みな使用法など

ヒューストン監督の腕が冴える。ホテルの船に乗り換えるとフランクは一瞬の隙を突いてギャングを掃討する。ラストのまとめ方もうまい。まさにハードボイルド映画の傑作といえよう。戦後、間もなく、復員将校のフランクが戦友の遺族を見舞いにフロリダ半島の突端、キー・ラーゴに赴く。未亡人と戦友の父親がホテルを経営しているが、ギャング一味の隠れ家になっていた。おりしもハリケーンが接近し、ギャング達の気も荒くなり凶暴化する。遂にフランクが立ちあがる。感傷を排したハードボイルドなタッチで戦後の失意の雰囲気伝えてい

平成28年度第7回 鑑賞会

<鑑賞日：2016・6・27>

お嬢さん乾杯！

製作：1949年 松竹映画 モノクロ 上映時間 89分
監督：木下恵介
脚本：新藤兼人
出演者：原節子、佐野周二、佐田啓二、坂本武、青山杉作、東山千栄子、永田靖
受賞：毎日映画コンクール 女優演技賞（原節子）

（あらすじ）

自動車の修理業をやっている圭三（佐野周二）に、取引先佐藤専務（坂本武）から縁談が持ち込まれた。相手は池田泰子（原節子）という元華族の令嬢で、提灯に釣り鐘だと圭三は問題にしないが、佐藤専務の熱心な口説きに根負けして、とにかく見合いということになった。見合いをしたら、相手は予想していた高慢なお嬢さんではなく、憤ましいお嬢さんで、圭三はすっかり気に入ってしまった。佐藤から相手も承諾したと聞いた圭三は舞い上がり、新調の服、新しい靴、派手なネクタイを締めて、池田家を訪問した。圭三は家族の人たちに紹介されたが皆、良い人ばかりである。ただ、父親の浩平だけが、詐欺事件の側杖で刑務所に送られていた。

そして、池田邸も100万円の抵当に入っており、その期限はあと3月だと佐藤から聞いた圭三は、金のための結婚だと失望するが、泰子への愛情は深まった。圭三は泰子と帝劇にバレエを見に行き初めて見る世界に感涙する。その帰りに見た拳闘の試合に泰子も興奮するのだった。泰子の誕生日の祝いに圭三はピアノを贈った。泰子の弾くショパンの曲は分からない圭三は故郷の民謡を歌った。圭三と泰子は刑務所に泰子の父親を訪ねた。「金のための結婚はするな」と忠告する父親に泰子の心は重い。そぐわない雰囲気のまま別れた圭三は自分と泰子の住む世界は違うと感じた……

（解説）

1949年、原節子は4本の映画に出演した『殿様ホテル』（監督クラタ・フミンド）、『お嬢さん乾杯！』（木下恵介監督）、『青い山脈』（今井正監督）、『晩春』（小津安二郎監督）である。この年のキネマ旬報のベストテンでは第1位『晩春』、第2位『青い山脈』、第6位『お嬢さん乾杯！』であり、実に原節子主演の映画〔ただし『青い山脈』は群像劇だが原節子はその中心にいる。〕は3本がベストテン入りし、それらの作品での原節子の演技が認められて毎日映画コンクールで女優演技賞が与えられた。原節子にとっては初の栄誉である。『お嬢

さん乾杯！』は原節子が木下恵介と組んだ唯一の映画である。脚本は木下と新藤兼人。没落した元華族の令嬢と自動車修理工が見合いをし、結婚するまでを描いた喜劇だが、木下恵介の軽快なタッチと新鮮な感覚は、小津安二郎、成瀬巳喜男とは異なる原節子の明るい側面を引き出している。その意味からも原節子にとって、この映画は貴重な作品と言えよう。斜陽の令嬢と俄か成金の青年が見合いをして、周囲をハラハラさせながら結ばれるまでを、木下監督が軽妙なタッチ描いた。戦後の東京の風俗がリアルに捉えられている。

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No14

代表 小俣 悦男

独自コース37番「大洞山・三国山」(通算119回)

ともかく素晴らしい天候に恵まれたことが快適なハイキングにつながった。先ず、とても良い雰囲気のある新緑むせぶ樹林帯と緩やかなアップダウンの続く道を歩き、大洞山(1383.5m)、ズナ峠を経て山梨・静岡・神奈川の3県にまたがる三国山(1320m)に着く。小休憩後、三国峠から鉄砲木の頭(明神山：1291m)へ、此処は富士山、山中湖が一望できる絶景の場所。大洞山・三国山・鉄砲木の頭(明神山)コースは全般になだらかで、歩きやすく、春から秋にかけて様々な花や野鳥の音が楽しめる。

実施日：平成28年5月19日(木) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約5時間 歩行距離 約15km 参加者：19名(男性12名 女性7名)

コース所在地：神奈川県・山梨県・静岡県

交通：往路：大船駅 7:08 発 ⇒ 国府津駅 7:47 発 ⇒ 御殿場駅 8:50 発 ⇒ バス 籠坂峠 9:25 着
復路：旭日丘 15:50 発 ⇒ 御殿場駅 18:18 発 ⇒ 国府津駅 19:19 発 ⇒ 大船 19:52 着

コースと時間：籠坂峠 9:40 発 ⇒ アザミ平 10:30 発 ⇒ 大洞山 11:10 発 ⇒ ツナ坂峠手前 12:00 着(昼食) 12:30 発 ⇒ 三国山 12:40 発 ⇒ 鉄砲木の頭(明神山) 13:30 着(コーヒータイム) 14:00 発 ⇒ パノラマ台 14:30 発 ⇒ 三国山登山口 14:50 着 ⇒ バス停：旭日丘 15:25 着

ご存知でしょうか！

三国山とは、例外もあるが一般的には三国岳と同様、三つの国(旧制の)にまたがって位置していることが名称の由来。北海道、群馬県、岐阜県、富山県、岡山県、島根県など日本各地に多数ある山の名称。読み方は地域によって、「みくにやま」・「さんごくさん」・「みくにがせん」などと異なる。今回、登山した三国山(みくにやま)はかつての相模国・甲斐国・駿河国、現、神奈川県足柄上郡山北町と山梨県南都留郡山中湖村及び静岡県駿東郡小山町の境界にある1320mの山。神奈川県には三国山の名前がつく山は他に静岡県裾野市と接する箱根町と山梨県上野原市と東京都西多摩郡に接する相模原市緑区藤野の都合三山があり、いずれも「みくにやま」と呼ばれている。

緑さす富士を囲むや碧い空 一税



鉄砲木の頭(明神山)からの富士山、山中湖



大洞山山頂での集合写真

独自コース 38 番「生藤山」 (通算 120 回)

実施予定日の 9 日が雨天のため一日延期して予備日 10 日に実施した。お陰様で好天に恵まれ絶好の山行日和となった。一方で都合が折り合わず参加者は 17 名と当初予定より 3 名少なくなった。なお、今回のコースは平成 17 年 8 月 19 日に歩いた、関東ふれあいの道東京都 3 番コース「富士見のみち」の一部に軍刀利神社への道を加えたコースとした。

実施日：平成 28 年 6 月 10 日(金) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 5 時間 歩行距離 約 10km 参加者：17 名(男性 10 名 女性 7 名)

コース所在地：東京都・神奈川県・山梨県

交通：<往路>：JR 東神奈川駅 6：32 発 ⇒八王子駅 7：34 発 ⇒高尾駅 7：47 発 ⇒上野原駅 8：05 着 <準備体操>上野原駅前 8：30 発 ⇒石楯尾神社バス停 8：50 着
<復路>井戸バス停 14：39 発 ⇒上野原駅 14：58 着。JR 上野原駅 15：06 発 ⇒高尾駅 15：24 着 ⇒八王子駅 15：42 発 ⇒横浜駅 16：41 着。

コースと時間：石楯尾神社 9：00 発 ⇒甘草水 10：20 着 ⇒三国山 10：43 着 ⇒生藤山 10：55 着 ⇒三国山へ戻る 11：05 着(昼食)11：40 発 ⇒熊倉山 12：20 発 ⇒女坂分岐点 12：45 発 ⇒軍刀利神社 ⇒13：45 発 ⇒井戸バス停 14：10 着(オレンジタイム)

ご存知でしょうか！

*生藤山(しょうとうさん：標高 990.3m)は、東京都西多摩郡檜原村と神奈川県相模原市緑区との境界にある標高 990.3m の山。奥多摩地域の南端。神奈川県の最北端。なお、神奈川県立陣馬相模湖自然公園圏内でもある。神奈川県最北の山。このすぐ西に三国山(みくにやま)があり、相模、甲斐、武蔵の三国が接している。ここは昔から境界紛争が絶えなかった。そのため生藤山付近では、境界をはっきりさせる為、木々の伐採をしない「切り止め」があったといわれており、それがいつしかキット山となり、生藤(キット)の字が当てられ、生藤山と呼ばれるようになったと、伝えられている。生藤山が属する奥多摩は、東京都西部の山岳地帯を指す言葉であり、東京都西多摩郡奥多摩町を中心とするが、周辺の山域を含む。東京都・埼玉県・山梨県・長野県にまたがる秩父多摩甲斐国立公園のうち、東部を形成する地域である。主な山は、高水山・岩茸石山・惣岳山の高水三山と棒の折山、川苔山、雲取山、三頭山、御岳山などである。

梅雨晴れ間足並み揃え生藤山一税



生藤山・三国山・熊倉山は関東ふれあいの道
東京都 3 番コースの一部



軍刀利神社社殿前での集合写真

「安全登山講演会」 拝聴記

ふれあいの道歩こう会 山腰 策次郎

講師：元警視庁山岳救助隊副隊長 金 邦夫氏

演題：「中高年登山の落とし穴」 —— 奥多摩遭難事例に学ぶ ——

日時：平成28年5月2日 13時30分～15時30分

場所：かながわ県民センター7階

出席者：34名 ふれあいの道歩こう会 19名、横浜やまゆり会 17名（重複者2名）

登 山者の遭難に関するニュースが連日報道されているゴールデンウィークのその最中にこの講演会は開催された。講演会は、山歩きが大好きな仲間が集う「ふれあいの道歩こう会」と「横浜やまゆり会」の両方の会に所属する宮原さんの発案で両方の会の共同主催で開かれる運びとなった。

講師の金邦夫氏は、警視庁青梅署で20年間にわたり山岳救助活動に貢献、3年前副隊長として退任された山岳救助のエキスパートであるとともに登山家としても知られている。金氏は昨年奥多摩での救助活動の記録をまとめた3冊目となる著書「すぐそこにある遭難事故」を出版、遭難から安全な登山のための技術や知識を学ぶことで、山を楽しむための一助になればうれしいと語っている。今回の講演もほぼこの本に沿った内容であった。氏は仕事柄屈強な体の持ち主と思われるが、外見上はスマートなナイスミドルといった風貌で来年古希を迎えられるとはとても思えないというのが第一印象であった。

講演の案内役は「ふれあいの道歩こう会」代表の小俣さんが、主催者挨拶は「横浜やまゆり会」会長の酒井さんが務められ、奥多摩での実際の救助活動の様子を記録した15分程のDVDを観賞した後、いよいよ本題の講演となった。以下はその概要である。

金氏が救助活動を行っていた奥多摩は、雲取山をはじめ御岳、川苔、棒ノ折、三頭山等の人気の山が多く、比較的標高も低く、気楽に登山ができる地域との印象が強いが、毎年50件以上の遭難事故が発生、重大事故（死亡又は行方不明）も5～6件発生する危険度の高い地域である。事故の内容は本格的な山での遭難ではなく、登山道からの滑落や道迷い

等のごく初歩的なものが大半を占める。遭難事例を分析すると次の4つのキーワード「高齢」「男性」「単独」「初心者」が強く関係していることが分る。全国でも60歳以上の遭難事故が50%、重大事故では60%以上を占め、一方単独登山者による事故も60%以上となっている。高齢の男性が一人で山に行くことは自ら事故に遭いに行くようなもので厳につつまなければならぬ。

また、遭難事故は特定の時間帯とその山の特定な個所に集中する傾向がある。時間帯では、昼食直後が最も多く、比較的下り坂が多くなることと食後の気の緩みに起因するとみられ、我々の山歩きにおいても特に注意が必要な時間帯と自覚し今一度気を引き締め行動したい。事故が集中する危険個所について事前に情報収集が必要なことは言うまでもない。

金氏が講演の中で「山屋は常に矜持を持って」と再三口にされていたが、そのためには山をよく知り、体力をつけ、装備に気を配る（特に下着類）などの事前の準備が重要と指摘された。近頃は軽く膝が痛い程度でも、歩いて電車で帰れる状態でも救助要請する者が多いとか、救助要請に際しても常に登山者としての矜持と自覚を持ってほしいとの厳しい言葉が印象的であった。

講演を通しての感想は、金氏が奥多摩で自ら救助活動に携わった経験に基づく生々しい話題が中心で、その臨場感と迫力について引き込まれることが多かった。また遭難者やその家族に対する配慮が随所に見られ、氏の思いやりのある人柄を垣間見ることができた。

講演で学んだ多くのことをこれからの山歩きに生かし、万全な準備を心がけ、山にあっては矜持を持ち続けたいものと強く心に誓った次第である。



講師の金邦夫氏



案内役の小俣悦男さん



会場の風景（１）



会場の風景（２）

「浮雲俳句会」 抄録 No.34 回

代表 北野 清市

99回例会 平成28年4月24日

[秀作]

天賞

春泥の団子並べる園児かな

とも女

天地人三賞とも俳句の型は虚子型（名＋名＋動＋名）である。掲句は滅多に見掛けない句であり、しかも、奇想天外な子供の発想か見事。

春の泥でわざわざく団子を並べるく園児くたちが登場。云われてみれば、幼い子(園児たち)はぺちゃんこになって春の泥で団子を造り、丸めたものを台の上などに並べて喜びあうのである。なお、[鴨の嘴よりたらたらと春の泥]は、虚子が本県の三溪園で句作したものである。

地賞

雪解山背後に据ゑて深志城

一馬

信州松本城の情景詩。日本アルプスをく背後に据えくた大きな景色である。松本城は、長野県松本市に昔からある城。天守・渡り櫓など五棟が国宝。守護大名小笠原氏の出城の一つで、別名・深志城であって、武田晴信・小笠原貞慶がそれぞれ修築した。

現在遺構は、1590年(天正18年)入封した石川数正の企画、その子三長により完成した。桃山形式・五層六階・連結式・寒冷地型のものである。

人賞

雪解川沐浴のひと祈りをり

あきえ

印度のガンジス川にあるベナレスの珍しい光景。ベナレスは、印度北部の30万人の都市であり最大の聖地でもあるとともに沐浴場での沐浴風景でも有名である。

一方、わが国の神仏とは異なり、ヒンズー教は、印度人の大多数が信奉している民族宗教。死者が出ると、ベナレスなどの火葬場で死体を焼き、残った骨をガンジス川に流す習慣のもとにある。従って、当該火葬場の四・五百m下流では、信者が太陽の出る前から川に入り、く沐浴(体を洗い清める)くをしながら神に祈願する風習もあり、印度中から信者が殺到する。まさに異様な光景である。しかも、山々から流れ出る身震いのするような冷たい水に早朝からつかり、一心不乱に両手を合わせて祈り続けるのである。宗教の違いを再認識させられるのである。

[特選]

瀬戸瀬戸の天草五橋春霞

勝美

大小多数の島々からなる天草。天草五橋が目にとまった。五橋ということは他の島との交通手段は、船を利用するのだろうか。自然が残る風光明媚な所だろうと想像する。橋上からの霞がかかった眺めも素晴らしいだろうと思い作りました。

春の宵天草の磁土練り上げり 和 女

兼題の「天草」は、歴史上有名な地。そして優れた陶石を産出し、日本各地の磁土・釉薬の原料として用いられていることを知ります。焼き物を作る私にとって思いを強くする地ともなりました。春の宵、一人一塊の土と向き合うひととき。土とそれを包み込む両手だけを見つめ、菊練りに集中します。時間がゆっくりと流れ、心が無になっていく。静寂が広がります。

野島山不二山までも陽炎ひて 國 眼

春のうららかなある日、磯の香に誘われるまま、伊藤博文別邸をぶらついている自分がいました。思う存分、小半時位でしょうか、磯の香と潮騒に抱かれました。見送られて門を出ました。あたりを見廻しましたら、野島山あたりが、陽炎いて見えました。久し振りに野島の山頂を目指しました。展望台からは富士山も遠望出来ました。いつもはくっきりはっきり見えるのに、あるかなきかのようでした。ぼうーとしていました。私の眼鏡のせいかと思い、拭き取り、見遣りました。私の遠眼鏡からは霊峰不二は陽炎いて酔っているのです。

あどけなき靴の避けゆく春の泥 十 九

春光眩しい公園の芝生。よちよち歩きの子。ピンクのリボンを付けた真白な愛らしい靴。ふと立ち止まり見上げる母の顔。支えるでもなく愛し子の背に手を添えて笑み返す愛情溢れる母の瞳。また よちよちと芝を踏む白い靴…。と。芝生の切れ目に待ちうけていたどす黒い春の泥。立ち止まる白い靴。踏むかと見えてきわどく避けていく。ピンクのリボンを付けたあどけない白い靴には まだ 汚点ひとつついてはいない。母と子の未来をことほぐかのような 春光の煌めき。

干しわかめ茹でて戻るや海の青 重 九

小柴は今は柴町になっていますが、鎌倉時代後期から続く漁村です。その小柴の漁師から採れたての干しわかめをもらった。優に幅 20 センチ、長さ 1 メートルあり、こげ茶色をしていた。折角の貰い物をいただくため茹でたら鮮やかな濃い青色に変わった。これは正に海の青である。小柴の海で成長したその生命がまだ生きていて茹でることにより蘇ったのである。新鮮な地元産の若布のおいしかったことは言うに及ばず、小柴の海に感謝したいと思います。

100回例会 平成28年5月22日

浮雲俳句会発足100回記念。

浮雲俳句会（以下「浮雲」という）は平成18年7月「金沢区にスタンスを置き、伝統俳句を踏まえ、現代を広く詠む」と定め、メンバー18人衆でスタートした。そして平成23年5月には区切りの50回の例会を迎え、メンバーがそれぞれ5句を投句して「みんなが選ぶベストテン」を実施した。

爾来毎月1回100回の例会を積み重ねることになった。こうなれば、浮雲発足100回記念をどうするかが問題になる。しかし、浮雲は10周年記念事業として『十年の歩み』を最近発刊したばかりである。従って、浮雲発足100回記念の計画は割愛した。

[秀作]

天賞

利休雨上がり虹立つ城ヶ島

十 九

城ヶ島の情景詩。〈利休雨〉は梅雨の前に降る利休色の黒ずんだ緑色の雨のことである。また〈虹〉は、大気中に水滴が浮かんでいる場合、太陽と反対側に美しい七色の帯が半円形に見られる。紫・藍・青・緑・黄・橙・赤の順である。傍題として朝虹・夕虹・紅の帯・二重虹などがある。ギリシャ神話では女神が天地をわたる橋とされ美しく幻想的である。

掲句は最近見掛けた虹。利休色の黒ずんだ緑色の雨が上がり、東の方の房総半島上空に絵にかいたような虹を見付けたのだ。予期しなかった美しく幻想的な虹に驚嘆したのである。

地賞

日の窓辺猯の住みたる籐寝椅子 和 女

妖怪性すら連想させる俳句。〈猯〉は、中国の想像上の動物。鼻はゾウ・目はサイ・足はトラ・尾はウシ・全体がクマに似ている。昔から邪気を除くとされ、この像を描いて魔よけ札としたり、口で唱えたりした。一方〈籐寝椅子〉は、大正の頃から見掛けられるようになり、涼しげで軽さを感じ夏に愛用。

薄日の射す〈窓辺〉で〈籐寝椅子〉を出し、転寝をしようとしたところ、〈猯〉が現れ、いろんな古のことを思い出させ、自身驚愕したのである。

人賞

被災地へ贈る赤心白い羽根 一 馬

地震応援俳句。熊本地震の一ヶ月後の状況は、死者49人・負傷者1717人・建物損壊＝大分などと8万3000棟。避難＝熊本大分で1万480人・震度1以上1400回を超える地震。余震が続き長期化の傾向が強く、震源の浅い内陸直下型地震。

作者は、〈被災地〉熊本への偽りのない心情の吐露として、〈白い羽根〉を贈ったのである。また〈赤心〉の赤と〈白い羽根〉の白の対比も愉快だ。

〔特選〕

絶壁にうみうの住処城ヶ島 一 幸

この1年間、島嶼俳句ということで、兼題として日本の島々が掲げられて、その最終の島兼題は「城ヶ島」であった。島名、山名、湖沼名等、地名に関する兼題の場合、その地名には季語がないので、適切な季語を選んで、作句しなければならず、自分で使える文字数は12～13文字である。この「城ヶ島」の句には季語として城ヶ島に生息する「鵜(海鵜)」(夏・動物)を選んで作句したものである。城ヶ島の南岸の絶壁を住処とする「うみう」は広く知られており、その絶壁とうみうを組み合わせると俳句としたものである。

母の日の母の記憶や割烹着 祥 代

八年前に亡くした母の思い出は数多くありますが・・・いつも洋装の母は事あるごとに和服を着ていました。子どもの頃から私はその横に座って変身する姿に見とれていました。そして着替えると白い割烹着を付けて立ち働いていました。その姿に私は母がなんて美しいのだろうと思った事を思い出して作った句です。

柏餅届けて見せる背中の嬰(こ) 一 柷

どこの親も子は最愛でかけがいのない宝であるだけに、機会があればひと様に披露したいのが親心であろう。5月5日の端午の節句におそらく初節句と思われる嬰兒(みどりこ)を背中におんぶ、日頃からお世話になっている親戚、知人や近所方々に手作りであろう柏餅を手みやげに無事に成長をしているわが児を改めてお見せして、親しく明るく楽しげに話をしている母親と嬰兒をのぞき込む周りのひと達のほのぼのとした景をしたためた一

句である。

戦無き世祈りて兜飾りけり とも女

息子が誕生した時、祖父母は、大変喜んだ。そして五月の初節句に、当時としては高価な兜を祝ってくれた。息子も幼いうちは珍しがり、燥いで喜んでいた。しかし、成長するにつれ、毎年飾っていた兜も忘れがちになり、2年置き、3年置きと減っていった。わたしの子供時代は戦争中で、男の子は、新聞紙で兜を折り、被って戦争ごっこをしたものである。その後、日本は、現在まで平和が続いており、有難いことだと思つづく思う。しかし、外へ目を向ければ、世界情勢は、年々厳しくなり、不穏な空気に取り巻かれている。今年は、暫く振りに兜を飾った。わたし達が体験した悲惨な戦争が、二度と起こらないことを念じながら。

ピチピチと小柴の海の穴子かな 重九

小柴は伝承によると、今から七百年前の応長元年の天津波の災いにより、長浜千軒という漁村から移住してきた漁民の集落で、古くから漁業を生業としてきました。特産は穴子、シャコ、海苔です。なかでも東京湾で獲れる穴子は江戸前穴子として、寿司種として人気の高い魚です。ピチピチと底引網から揚がってくる穴子は、小柴の漁業にとっては海の貴重な恵みであり、市民にとっても高級食材として親しまれております。

《18回金沢区民俳句大会への参加 平成28年6月5日》

本日は西日本に続き、関東甲信越でも梅雨入り宣言が出された。まさに生憎の天候だ。

この点、ご当地俳句の提出も佳境に入って、一安心したのか「金沢俳句会会員募集」について珍しくお願いした。金沢俳句会は平成11年5月に開設。「俳句の愛好者により、俳句を広く区民の中へ浸透させ、地域文化の発展に寄与する」ことを設立目標に掲げている。

このような中であって、特記すべきは、わが浮雲及び金沢俳句会のメンバーの活躍であって、区民俳句大会の天地人賞すべてを獲得して大会を終了した。

地賞

実時の墓前にころり落とし文 十九

ご当地俳句での情景詩。〈落とし文〉は、体長1cmくらいの甲虫が栗・かしわなどの葉を巻いて巣を作り、そのなかに卵を産んだもの。その形が巻いた文に似ていことから、昔公然とは云えないことを書いて、道路などに落とししておいた文書のことである。

称名寺の〈実時〉像は立地条件のよい場所に設置されているが、その近くへ〈ころり〉と不意に〈落とし文〉があったのだ。〈落とし文〉には何と書いていたのか。彼此思いを馳せながら帰路についた。

人賞

捨てがたき昭和の箆笥衣更 とも女

愛着のただよう衣更俳句。〈箆笥〉は家具の一種でひきだしや戸を付け、衣類その他の品を保存整理するのに使う木製の箱。

30年も40年もたった捨てがたい〈昭和の箆笥〉から、恰好の上着を発見。丁度〈衣更〉の季節であったので、直ちに試着。鏡の前で自分に見入る様が手に取るように伝わってくる。

昭和の衣更の気持ちがよく出ているとともに生活実感が如実に表れた作品である。

追って、天賞は金沢俳句会のメンバーによる作品であったので省略する。

Windows10の無料アップグレードサービスは7月29日で終了しました。“わ”の会の多数の会員の方がWindows10パソコンを使用されています。

「パソコンを使いこなす会」ではメンバー28人中20人が使用しています。

Windows10は使いやすいOSですが、Windows7やWindows8.1との操作性の違いに戸惑っている方もおいでです。

そこでこのOSをよりよく操作する方法をまとめました。

Windows10の操作

1. 「Windows」ボタン

「Windows」ボタンは、画面左下角にある「白い窓」マークのボタン。これをクリックするとスタート画面が現れる。

2. 「Windows」キー

「Windows」キーは、キーボード最下段左側にある「窓」の形をしたキー。これを押してもスタート画面が現れる。

3. 「Windows」キー+「X」キー

「Windows」キーを押しながら「X」キーを押すと、メニューが現れる。このメニューでWindowsの基本的な操作を実行できる。特に、下から6段目の「コントロールパネル」は有用。

4. 「Windows」キー+「D」キー

「Windows」キーを押しながら「D」キーを押すと実行中のアプリがすべてタスクバーに置まれ、デスクトップが表示される。

5. 「エクスプローラー」

① タスクバーに置かれた「エクスプローラー」（ブックスタンドの形状）をクリックすると「ドライブ」と「フォルダー」が表示される。

② 「エクスプローラー」アイコンを右クリックするとメニューが表示される。

③ ここで「エクスプローラー」をクリックするともう1つのエクスプローラーが立ち上がる。

6. スタート画面から起動

スタート画面右側にはWindows8.1と同様なアプリのタイルが表示されている。このタイルをクリックしてアプリを起動することも出来る。

7. すべてのアプリ

「Windows」キーを押して現れるメニュー左下の「すべてのアプリ」をクリックするとパソコンにインストールされているすべてのアプリが表示される。アプリ名が数字・アルファベット・ひらがな・漢字の順番で表示される。

8. タスクバーにピン留めする

使用頻度の高いアプリのアイコンをタスクバーにピン留めしておくことですぐに起動できて使い勝手が良くなる。その方法は、下図参照。

① 「すべてのアプリ」を開いて、特定のアプリを選



択して右クリック

② 「その他」－「タスクバーにピン留めする」をクリック

これで当該アプリのアイコンがタスクバーに表示される。

9. スタート画面にピン留めする

比較的良好に使用するアプリをスタート画面にピン留めすることを勧めます。その方法は、

① 「すべてのアプリ」を開き、特定のアプリを選択して右クリック

② 「スタート画面にピン留めする」をクリック

この操作で当該アプリのタイルがスタート画面に

表示される。

Windows10 を更に使いやすくする

1. スタートメニューに「フォルダー」を表示

Windows 7と同じようにスタートメニューに「ドキュメント」等フォルダーを表示しよう。その方法は、

- ① 「Windows」キーを押す。
- ② 「設定」－「パーソナル設定」－「スタート」をクリック
- ③ 最下端の「スタート画面に表示するフォルダーを選ぶ」をクリック
- ④ 表示するフォルダーを「On」にする。

2. Internet Explore を常用する

Windows10 になって最新のブラウザー「Microsoft Edge」が提供された。これは多機能なブラウザーだが、使い勝手がいささか悪い。暫くはInternet ExplorerやGoogle Chromeを使う方が良い。この手順は、



- ① 「Windows」キーを押す。
- ② 「設定」－「システム」－「既定のアプリ」をク

リック

- ③ 「Web ブラウザー」を「Internet Explore」にする。

これで、URL をクリックしたときにInternet Exploreが立ち上がる。

3. タスクバーのブラウザー

タスクバーにはMicrosoft Edge がピン留めされている。これをInternet Explore に変える。その方法は、

- ① タスクバーの「Microsoft Edge」を右クリック
- ② メニューから「タスクバーからピン止めを外す」をクリック

これでタスクバーのMicrosoft Edgeのアイコンが消える。

- ③ 「Windows」キーを押す。
- ④ 「すべてのアプリ」をクリック
- ⑤ 「Windows アクセサリ」－「Internet Explore」を右クリック

- ⑥ メニューの「その他」－「タスクバーにピン止める」をクリック

これでタスクバーに Internet Explore のアイコンが表示される。

4. アプリの関連付け

画像をすべて「フォト」アプリで開くには次のように操作する。

- ① 「Windows」キーを押す。
- ② 「設定」－「システム」－「既定のアプリ」をクリック

- ③ 最下段の「アプリによって既定値を設定する」をクリック

- ④ 下図のコントロールパネルが開く。

- ⑤ 「フォト」をクリック

- ⑥ 右下端の「既定でこのプログラムで開く項目を選択する」をクリック

- ⑦ このプログラムを使用する拡張子に☑を付ける。

- ⑧ 「保存」をクリック

- ⑨ 「Ok」をクリック

「ジョン万次郎 漂流記（第2回）」

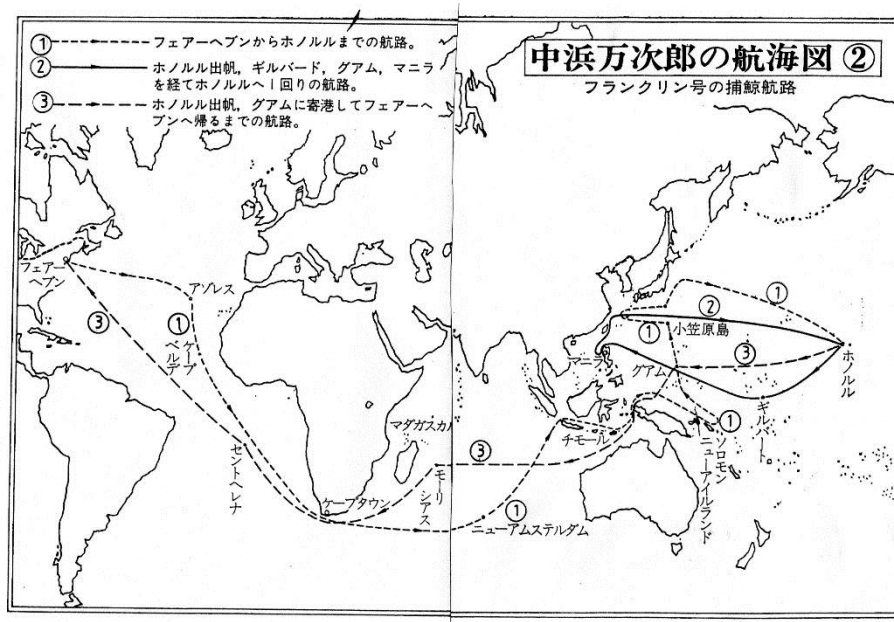
代表 真田 雅行

3. フェアヘブンでの生活（3年）

○航海途中で越年し、翌年6月（天保13、1842年）、船長の故郷ニューベッドフォード港に着く。港の入口に大きな石の家があり、石硝子の火袋に終夜火を灯す（灯台であろう）のを見る。「北アメリカ34州、国主一人ありて、この国主4年毎に替わるといふ。1州毎に庄屋のごとき者ありて政道を司り」とあり、国情もしっかり把握している。アメリカ人については「惣分色白く、髪の色艶よく、男子はザン切、女子は後ろに束ね櫛で留める。眼は日本の如きもあり、又猫の如きもあり。背は6尺より6尺2寸位、寿命は大体日本の如く、たまに100才以上の人もある」となかなか観察眼も鋭い。

○対岸のフェアヘブンに逗留して、船長の姉に「文字を書く事を習ふ。9月より翌3月迄文の稽古に行く」と記しているの、きちんと英語の勉強をしたようだ。このほか「桶屋に行き、弟子になりて細工を習ふ」、「測量の師匠ありて日々弁当持て習に通ふ」など万次郎の知識欲も旺盛である。

4. フランクリン号での捕鯨航海（3年4カ月）



○1846年（弘化3）8月、万次郎は28人乗りの捕鯨船フランクリン号に雇われ出帆し、鯨を獲りながら大西洋、南アの喜望峰、インド洋を過ぎ、航海を続け、インドネシア、ニューギニア近辺でも操業したようであるが、地名については万次郎が聞いたまま記しているの、特定しがたいものがある。中にはソロモン諸島らしい「人喰島」に係船したという下りもある。

○1847年（弘化4）3月頃、グアム着船1ヶ月後に北西方向に乗り出し、小笠原諸島経由真西に向かい、琉球沖に達し上陸したが言語が通ぜず去る。その際琉球役人より牛2頭を貰い、船長が返礼にアメリカ木綿を贈った。

日本列島沖を北東に進むと、7、8月頃日本近海沖で奥州仙台の漁船20～30艘と出会い、日本に連れて

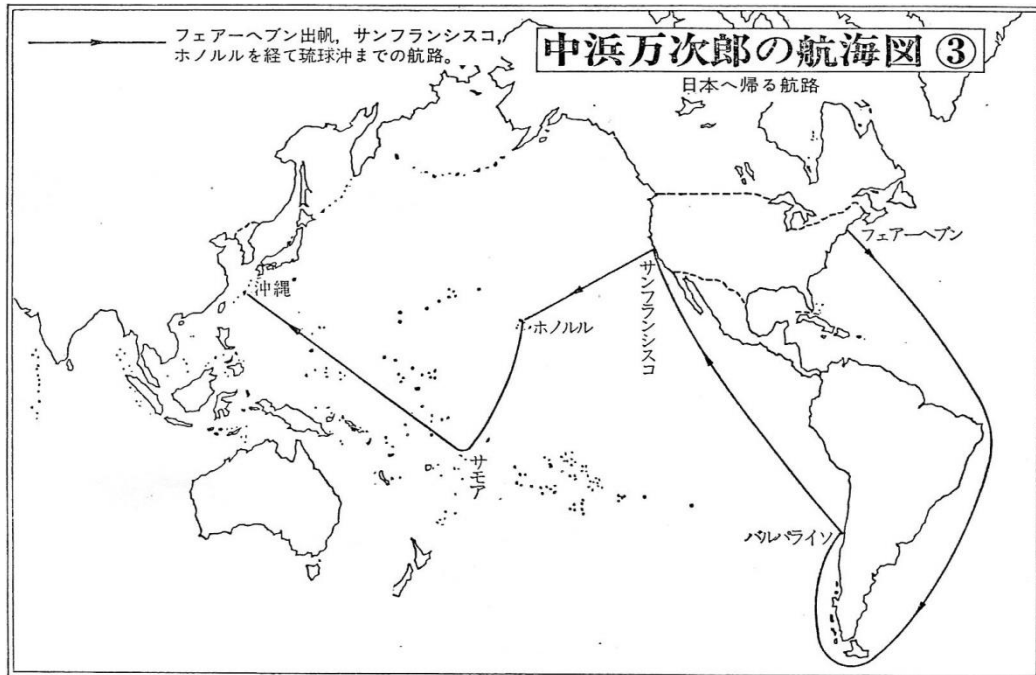
行ってもらいたい、と相談したが言葉が通ぜず聞き入れられなかった。10月頃ホノルルに到着。オアフ島で寅右衛門と7年ぶりに会ったが、大工の弟子になっていた。重助は1846年1月病死。伝蔵と五右衛門にも会う。伝蔵によれば二人は日本に帰る為（寅右衛門はハワイに残留と主張）、アメリカ船（フロリダ号）に乗せて貰こととなり、1846年（弘化3）ホノルルを出港したが、途中グアム島沖は風波が強く危険なため上陸出来ず、そのうちに北海道に至り一旦上陸するも村人は皆逃げてしまい、仕方なく本船に引き返し、カムチャッカ沿岸を通り再度ホノルル戻ってきて、たまたま碇泊中のフランクリン号の万次郎と再会したのだという。

○1848年（嘉永1）11月頃、万次郎のフランクリン号は再度捕鯨の為ホノルル出港、捕鯨をしながら翌1949年（嘉永2）2月グアム島に寄港（4回目）。然るにこの頃からデビス船長は精神障害を起した為スペイン領フィリピンのマニラで降ろしたので船長不在となり、万次郎は一等航海士・副船長となる（21才）。その後モルッカ諸島を経てインド洋に出て南アフリカ喜望峰を廻って大西洋に出、1949年8月にアメリカのフェアヘブンに帰る。（鯨捕獲数500頭）

いずれにせよ万次郎が乗った捕鯨船の行動範囲の広さには驚く。

5. カリフォルニアの金山かせぎ（3ヶ月）

フェアヘブンの生活（2ヶ月）——南米廻り航路（7ヶ月）——加州で金鉱掘り（3ヶ月）——ホノルル



○1848年アメリカはメキシコよりカリフォルニア始め西部地区を獲得して領土は太平洋岸に達したが、折から西部は金鉱発見でゴールドラッシュとなっており、万次郎は日本へ帰る資金を稼ぐ為砂金採りを決意、ホイットフィールド船長の了解を得て1849年（嘉永2）10月船でカリフォルニアへ向かう。南アメリカの南端ケープホーン岬を回り7ヶ月かかってカリフォルニアに着き、蒸気船でサクラメントに着く。そこから馬を雇いシエラネバダ山脈の険しい山道を行き金山に到着、砂金を採るも、雇い主が賭博で負け、賃金を払ってもらえず。自力で掘道具等を調達して稼ぎ、帰国資金銀600枚を貯めてサンフランシスコに戻る。

○1850年（嘉永3）9月、サンフランシスコから商船でホノルルへ。寅右衛門、伝蔵、五右衛門と会い日本に帰る話をするが、寅右衛門はホノルルで大工仕事をし永住したいというので、3人で帰国の約束をする。鎖国している日本に直接行くのは何が起こるか不安があるので、まずは琉球諸島が一番都合がよいので、便船を得て琉球の近くまで航海して、そこから本船を離れてボートで島の一つに上陸することにして、ボートや羅針盤その他航海に必要な道具を買い整えることにした。

○ハワイではホイットフィールド船長の友人デーモン牧師に最初から大変よく世話をしていただいたので、万次郎にとって忘れ得ぬ恩人となる。

6. サンフランシスコから琉球までの航海（6ヶ月）

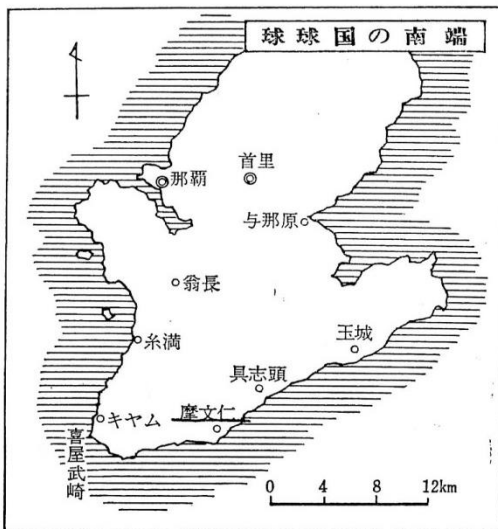
○紀州の漂流13人の漁師がアメリカ船に助けられ、そのうち8人はロシアの役人に預けられ、残り5人がオワフで万次郎達と合流し一緒に帰ることにした。折よく清国行の便を見つけた。しかし伝蔵と五右衛門が遅れてしまい出帆に間に合わなかった。

その後清国へ行くというアメリカ船を見付け、万次郎が低賃金で桶を作ることを条件に紀州の5人と共に土州の3人を乗せてもらうことになった。しかし万次郎は船長が約束の賃金を払わないことに腹を立て船を下りてしまったが、紀州の5人は乗せてやってほしいと頼み込んだ。

10日程過ぎて万次郎は清国行のアメリカの商船サラボイド号、を見付け、オワフに残る寅右衛門を残して、3人を琉球国まで乗せてもらうことで話がついた。

7. 琉球——鹿児島——長崎——高知の取り調べ（1年9ヶ月）

○嘉永3年（1850）11月、オワフ国ホノルルを出帆、70日程かかって嘉永4年（1851）正月、琉球沖10km地点でボートに乗り移り商船に別れを告げ、その日はボート内で夜明けを待った。



2月3日（旧暦1月3日）、陸に大勢の人が集まっていたので、日本語を一番よく覚えていた伝蔵が上陸したが、会話が通じず、万次郎も加わって会話をすると大分通じた。ここは摩分仁（まぶに）と言うらしい。

その内、薩摩の役人の付添風の人に来て、直ぐここから3里ほど先の那覇という所にある番所に行け、というので道具一式を持って出発した。が、雨上がりで道が悪く、草臥れて休息していると、役人が来て「翁長（おなが）」村に行くようにと言って連れていってくれた。近くの大百姓家で薩摩の侍の詮議を受けた。ここに180日ほど居た後、那覇經由鹿児島に行くようにとの命

令が出た。待遇は良かった。

○嘉永4年（1851）7月18日、那覇を出帆し、数日かかって鹿児島湾の入口山川港に着き、29日朝同所を漁船に乗り、暮れ方鹿児島着。ここに48日間逗留したが、殿様の指示だとして親切な扱いを受け、立派な食膳、酒、衣類、日用品等もすべて行き届いた賓客のもてなしだった。

○万次郎には殿様島津斉彬から直々の御下問があり、とりわけアメリカ合衆国の文化全体について詳しい質問があった。万次郎答えて言うには、アメリカでは家柄、門地は全く問題にされないで、人はその能力によって登用され、国王（大統領）は人望ある人が入札（選挙）によって選ばれ、民主主義、人権が基本的な精神になっていること、蒸気船、汽車、電信機、写真術といった文明の道具から、数学、天文学、家庭生活等にまで話をした、といわれている。（斉彬は嘉永4年2月に藩主となる）

○那覇から鹿児島まで相当の日数がかかっているが、これは鎖国中のため琉球上陸の経緯を幕府に説明するのに万次郎等に不利にならないようにするため、幕府や長崎奉行への報告などに時間をかけたこと等、藩主島津斉彬の配慮によるものとされている。

○9月17日、鹿児島を出発、山道歩行、川船にて京泊に着、侍・役人を含め19人が船2艘に分乗し、29

日に長崎に到着。11月1日上陸、長崎奉行にひきわたされ、幕府役人による「改め」の上、踏絵をさせられる。役人屋敷の「白洲」において22日までに計18回の詮議を受けた。桜町牢屋囲いの内に9ヶ月入れられ、外出は出来なかったが、囲い内の往来及び入浴も許された。

万次郎所持品の内、測量器具、横文字書籍外6品、オワフ国から持参の砂金銀、舳・船具は長崎で召し上げられた。(後に江川太郎左衛門のお声がかりで江戸へ一部返却された)

○嘉永5年(1852)6月、国許から受け取りの役人等が長崎に到着、国方役人へ引き渡され、6月25日長崎出発、道中海陸滞りなく7月11日高知城下へ帰着、目付方の詮議が済むまで諸人応接を禁じられる。9月28日御用が済み、10月5日故郷中の浜へ帰着。万次郎26才。

○母との面会

万次郎は先ず庄屋へつれてゆかれ、母兄弟を呼びにやっている間に在所中の者達が次々に押しかけ、またたく間に庄屋の前は門前市となる。

その中に母が茫然として万次郎の顔を眺めているところに、万次郎が「只今こそ帰り来たれり、先ず先ずご機嫌にて目出度し」といえば、「さては万次郎か」と駆け寄り抱きついて暫く涙にむせんでいたが、庄屋の前に来て「どうも万次郎ではないようだ」という。庄屋は「万次郎に相違ない、長い間会っていないので顔を見忘れたのであろうが、日が経つにつれ、いよいよ我が子だと思い、夢から覚めた心地して次第に際限なく歓喜雀躍となろう」と話す。(以下次号)



万次郎の生家



万次郎の妻(鉄)(1860年)

図・写真の出典 『中浜万次郎の生涯』より

中浜 明 著(万次郎の孫)

北野さんがタウンニュースの『人物風土記』に

“わ”の会会員で分科会『浮雲俳句会』の代表である北野清市さんがタウンニュースの「人物風土記」の欄に登壇、自身の近況を話されています。



●10周年を迎えた浮雲俳句会の主宰で、金沢区俳句協会の会長も務める

北野 清市さん

能見台在住 86歳

人物風土記

題字は
林文字 横浜市長

17音で綴る生きた証

○：2008年、金沢区員の多くが初心者。季語が生涯学習“わ”の会に「俳句の体す今や区内の他団体と肩を並句の分科会やつくれないら成してない句も。それべる存在に。このたび同会か」と乞われ、浮雲俳句会でも句会の時間の半分を費は、その足跡を一冊にまとめた「十年の歩み」を発売の主宰となった。当初は会やし、丁寧に基礎を教え込めた「十年の歩み」を発売

した。「何年たつても記憶として残るのが俳句の良さ。む「ご当地俳句」の血肉と生きた証の17音になる」と力を込める。

○：「花吹雪からだに浴びてポトマック」。1990年、アメリカ東海岸を旅した時のこと。それまで俳句など詠んだこともなかったが、言葉が自然にあふれてきた。「尾崎行雄の贈った桜を米国人みんなが眺めている。ビデオや写真では到底表現できない心象だった」と振り返る。その後、5つの俳句結社に所属し、研鑽を積む。12年には「俳句読本」を上辞した。

○：今年1月、飲んだ帰り道に金沢文庫駅前で倒れた。一過性の心不全だった。病床で感じたのは花や緑、自然の力。「人間は弱いと思いたった。思いやりの気持ちが生ええました」。妻曰く、「い

わゆる昭和ひとけた生まれの男性」が普段は口にしな

い感謝の気持ちをにじませる。体調は徐々に回復し、100回目となった5月の句会も元気に参加した。「俳句の輪をもっと広げたい。みなさんに楽しんでほしい。その真っ直ぐな思いは続いていく。」

行事予定

2016年9月～2016年11月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月10日(土) 金沢CC 9:30~12:00 —源平の盛衰過程と頼朝・金沢— 「新版かねざわの歴史事典」編集長 熊谷 哲 氏	10月14日(金) 10:00~15:30 —杉田界限— 探訪実行委員会	11月12日(土) 能見台CC 9:30~12:00 —武蔵七党の譜系— 歴史研究家 盛本 昌広 氏
寺社を巡る会	9月1日(木) 10:00 集 合：北鎌倉駅 円覚寺 地 区：山ノ内 訪問先：建長寺、建長寺塔頭、円 応寺、長寿寺(半日コース)	10月6日(木) 10:00 集 合：藤沢駅 地 区：藤沢 訪問先：遊行寺、永勝寺、義経首 洗井戸、白旗神社	11月3日(木) 10:00 集 合：鎌倉駅東口、地 区：材木座 訪問先：光明寺、蓮乗院、補陀洛寺 11月25日(金)、バス特別探訪 訪問先：富士山本宮・北口本宮・東口 本宮各浅間神社、白糸の滝
古文書を読む会	9月8日(木) 区役所リハーサル室 10:00~12:00 赤井村石井家文書 9月22日(木) リハーサル室 10:00~12:00 奥の細道	10月13日(木) 区役所リハーサル室 10:00~12:00 赤井村石井家文書 10月27日(木) 場所未定 10:00~12:00 奥の細道	11月10日(木) 場所未定 10:00~12:00 赤井村石井家文書 11月24日(木) 場所未定 10:00~12:00 奥の細道
ふれあいの道歩こう会	9月15日(予備日16日) 独自コースNo.40 秋の大山 神奈川県 伊勢原市	10月12,13日(雨天中止) 独自コースNo.41 草津白根山と志賀高原 群馬県と長野県の県境	11月10日(予備日11日) 独自コースNo.42 羅漢寺山(弥三郎岳)と昇仙峡 山梨県 甲府市
懐かしの映画を観る会	9月12日(月) 12:15 金沢CC CC 柘榴坂の仇討 (日) 9月26日(月) 12:15 金沢CC CC 恋の手ほどき (米) 旅情 (米)	10月10日(月) 12:15 金沢CC CC 風とライオン (米) 10月24日(月) 12:15 金沢CC CC 父親たちの星条旗 (米)	11月14日(月) 12:15 金沢CC 米 (日) 11月28日(月) 12:15 金沢CC CC オリент急行殺人事件 (英) アフリカの女王(英)
浮雲俳句会	9月25日(日) 9:30~ 能見台CC 第103回例会 テーマ 五色沼	10月30日(日) 13:00~ のの花館 第17回金沢区民吟 行俳句大会への参加	11月27日(日) 9:30~ 能見台CC 第104回例会 テーマ 阿寒湖
パソコンを使いこなす会	9月13日(火) 金沢CC Windows 実用講座 —印刷設定— 9月20日(火) 金沢CC 画像処理実用講座 —デジカメ画像の取込み— 9:30~12:00	10月11日(火) 金沢CC Windows 実用講座 —データ移動— 10月18日(火) 金沢CC Internet 実用講座 —宅ふぁいる便— 9:30~12:00	11月8日(火) 金沢CC 画像処理実用講座 —画像ファイルの縮小— 11月15日(火) 金沢CC Explore 実用講座 —音楽CDの作成— 9:30~12:00

連絡先:

- ・学習会 090-6176-4543(内田孝知)
- ・浮雲俳句会 774-3878(北野清市)
- ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤晃)
- ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林洋)
- ・古文書を読む会 784-4900(真田雅行)
- ・ふれあいの道歩こう会 782-8147(小俣悦男)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿紀)

編集後記

今回もまた、学習会の要約に苦勞した。子供のころから楠木正成や「桜の幹に十字の詩」など耳馴染みのことではあったが、参考にした書物に目を通しながら、この中世動乱の時代に、改めて強く惹かれるものがあった。歴史上の事実に「もしも…」と逆のことを考えてみるのも、新鮮な刺激かも知れないと。今回、特に「もしも…」という思いに至ったのは、「もし実朝の暗殺がなかったら？」であった。

(田中徳明)

発行日	平成28(2016)年8月6日
発行月	4回(2,5,8,11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	鈴木 秀幸
編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 相川 勲 柴崎 幸治 山腰策次郎 江口 正彦 金間 誠一